

日南町第2回定例H30年3月13日

平成30年 第2回（定例）日南町議会 会議録（第3日）
平成30年3月13日（火曜日）

議事日程（第3号）

平成30年3月13日 午前9時開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員（10名）									
2番	山	本	芳	出席	3番	坪	倉	勝	幸
4番	荒	木	昭	君	5番	近	藤	仁	志
6番	比	奈	博	君	7番	久	代	安	君
8番	恵	西	子	君	9番	足	羽	正	君
10番	大	都	保	君	12番	村	上		広
	古		人	君					

欠席議員（1名）	
11番 福 田	稔 君

欠 員（1名）

局長	岩 崎 昭 男 君	事務局出席職員職氏名	書記	井 川 夏 実 君
町長	増 原 聡 君	説明のため出席した者の職氏名	副町長	中 村 英 明 君
教育長	丸 山 悟 君		総務課長	高 見 正 司 君
企画課長	木 下 久 君		教育次長	安 達 智 君
住民課長	浅 田 順 雅 君		病院事業管理者	中 古 政 聡 君
農林課長	久 城 隆 敏 君		病院事務部長	古 梅 千 幸 君
建設課長	財 田 原 陽 子 君		福祉保健課長	
保育園長	伊 田 英 寿 君		会計管理者	
農業委員会事務局				

午前9時00分開議

○議長（村上 正広君）おはようございます。

11番、福田稔議員から、体調不良により欠席の届け出が出ていますので、お知らせをしておきます。

ただいまの出席は10名であります。定足数に達していますので、平成30年第2回日南町議会定例会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（村上 正広君）日程第1、一般質問を行います。

一般質問は、議事進行の都合と通告制になっている関係上、関連質問については制限をいたしますので、御協力をお願いいたします。

タブレットの平成30年第2回定例会フォルダーの一般質問答弁要旨ファイル1ページをお開きください。

5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）このたびの町長選挙において、増原町長の3期目の当選を心からお祝い申し上げるところでございます。地方が厳しさを増すこの時局に、引き続いて日南町のかじ取りに果敢にチャレンジされる姿勢に、心より感謝申し上げます。私も議会に参画して3年ほどではありますが、町長の手をこまねいて待っていない姿勢、挑戦を

する姿勢は評価するところではありますが、その取り組みについて若干この機会に質問させていただきます。

まず最初に、交流人口・関係人口増加に向けた取り組みについてであります。このたび農泊推進事業の計画が示されましたが、その中でも観光協会によるイベントの企画、推進、管理等が多く見受けられます。今までの事業を継続し推進していく上で、現体制のままでやれるのか、この機会に伺います。

情報発信の取り組みは以前より随分進んでいると感じますが、その後の事業ごとの効果、反応の検証が不足していると感じます。来町者の意向、動向、満足度調査は事業の発展的継続には欠かせないと考えますが、その必要性をどのように捉えておられますか。

道の駅についてであります。このたび指定管理委託に変わるに当たりまして、3者の応募があり、その中で新年度より新たな指定管理業者が決定いたしました。その決定に至った評価と、異業種からの参入の新事業者に対する期待するポイントはどの点にあるのか、伺います。

移住定住対策についてであります。1ターン対策は各方面に出かけたり冊子もつくって対応しておられるのに対して、Uターン促進に向けた取り組みが希薄に感じますが、その点の見解はどうでしょうか。

続きまして、おおくさ荘についてであります。おおくさ荘が休止し、現在、福祉会から福祉保健課の所管になっておりますが、今後の利活用の方向性はいかがなものでしょうか。以上、最初の質問を終わらせていただきます。

○議長（村上 正広君）執行部の答弁を求めます。

増原町長。

○町長（増原 聡君）近藤仁志議員の御質問にお答えいたします。

まず、交流人口・関係人口増加に向けた取り組みについて、観光協会の事業継続を推進していく上での体制についての御質問でございますけれども、平成29年度から2カ年で、観光協会が事業採択を受けております農泊推進事業では、既に活動している古民家活用事業者や旧木下家のいわゆるブラッシュアップ、レベルアップ、インバウンドも見据えたインターネット予約の活用等、幅広い事業展開を計画、実施しているところであります。

観光協会事業につきましては、平成29年度より、体制も強化し、協会職員2.5人と企画課担当職員1名体制で事業実施に当たっております。道の駅に拠点を移して観光案内も行いながら1年間事業を推進してまいりましたけれども、案内所が不在となるなど、幅広い観光事業展開の中ではさまざまな問題も生まれております。平成30年度に向けては、常勤の協会職員3人体制と、道の駅観光案内のためのパート職員に加え、企画課担当職員1名の体制を考えておりますが、事業実施に当たりましては、企画課や協会役員、会員、観光ガイドの皆様など、町内協力者の支援もいただきながら推進していく考えであります。

続きまして、観光情報発信後の効果検証が不足しているとの御指摘でございますが、観光案内所の窓口設置、総合ガイドブックの発行、新しい観光マップの制作、SNS発信、観光ホームページの公開など、平成29年度も各種情報発信に積極的に取り組んでおります。それらの効果検証として、情報の受発信拠点である道の駅では、観光協会職員による駐車車両のナンバー調査も日々行っておりまして、また平成28年、29年ともに旅行会社のプレゼントキャンペーンに参加し、来場者の動向調査を実施しております。山陽方面からの来客数が約2割を占めることから、観光パンフレットの配布や電車、バスへの広告実施につなげております。

来訪者のニーズや満足度につきましては、アンケート形式の手法が有効ではあります。が、実際十分に実施できていない現状であります。今後町内観光施設とともに連携して、施設やイベントでのアンケート調査などを小まめに実施し、観光施策に反映していけるよう計画していく考えであります。また、フェイスブックなど電子媒体での情報の拡散は、地域や関係団体との連携が徐々にできつつありますので、今後、今、日野上のまち協等で行ってられます電子媒体を使ったアンケート手法などの検討を進めていく考えであります。

次に、道の駅の新たな指定管理者の評価と期待するポイントでありますけれども、選考委員会は外部委員2名を含む8名の委員構成で、申請のあった3者について審査を行いました。決定事業者に対する評価の中では、施設の効用の発揮、それから施設の適正管理、経営規模及び能力などの項目において高い評価となりました。道の駅の運営自体には実績がありませんが、魅力向上への情報発信力、外部への販売力、経営実績、スムーズな運営移管などの考え方が評価されました。また、今後期待する点として、日南ブランドの県内外

に向けたブランディングに着目しておるところであります。既にマーケットのニーズ把握に着手されており、取引先のスーパーマーケットチェーン、これは具体的には山陽方面になりますけれども、そちらへの交渉を行うなど、スピード感を持った取り組みにも期待が持てるところでございます。

また、道の駅に対する地元のつながりが弱いという課題に着目され、その解決こそ施設の魅力を高めるための糸口であるとして、今後地元団体の行事との連携や、教育機関を絡めた地域貢献の催し事を開催していくなど、地元との関連性を強めることもポイントとして捉えております。実際、既に先般、あべのハルカスで行われました販促のほうにも、社長さん等もおいでになって参加していただいておりますし、きょう午後行われます出荷者協議会にも挨拶なりをされるというふうに聞いておるところでございます。そしてIT技術を活用した営業展開、道の駅のフリーペーパーやSNSなどによる情報発信など、これまでの事業展開で培ったノウハウを活用した集客力や販売力についても期待しているところでございます。

いずれにいたしましても、道の駅を開設してから2年が経過した中で、新たな指定管理者による船出であります。2年間の経験を無駄にせず、しっかりと反省すべきところは反省し、生かすべきところは生かしていけるよう、官民一体となって取り組んでいきたいと思っております。

そして、Uターン促進に向けた取り組みが希薄だという御意見であります。町の総合戦略でも、20代から30代の若い世代のUターンを主眼として取り組んでいくこととし、世帯向け賃貸住宅の整備や分譲宅地への家屋建築助成などを行うこととしております。賃貸住宅整備は今後進めていく予定でありますけれども、分譲地での展開では、現在までUターンの実績には十分につながる結果とはなっておりません。今後町外に向けてのPR活動など、人口増につながるよう推進を図っていく必要があると考えております。

また、Uターンに特化した施策としては、本年度復活した同居奨励への支援などを行っております。今後直接的な支援はもとより、町が成長産業と位置づける農林業の所得を向上させる取り組みや、町内への就業の場を守り、職業選択の幅を広げる取り組み、また奨学金の返還免除制度、子育て支援制度などを積極的にPRしながら、Uターンを考えるきっかけとなる取り組みを進めていく必要があると思っております。

実際、先般、島根県の吉賀町だったと思うんですけども、日南町と同じような制度をやっておられて子供さんがふえておるという報道がございましたけれども、若干日南町の場合にはそういうPRが足らないのかなというふうに認識しているところでございます。

最後に、おおくさ荘についての今後の利活用の方向ですが、おおくさ荘は平成8年度に建設し、22年を経過しております。当初は日南町社会福祉協議会に事業委託し、平成17年度からは日南福祉会の指定管理により、介護サービスを提供してまいりました。その後、日南福祉会の職員確保が困難となり、おおくさ荘は平成27年度から休止となっております。職員確保の努力をしてこられましたが、状況は好転せず、再開の見通しが立たないことから、平成29年度からは指定管理を解除し、福祉保健課が施設管理をしております。

おおくさ荘は、土砂災害の危険地域等に指定されていないことから避難所として位置づけておりますが、ほかに活用方法を見出せておりません。また、併設している介護予防施設たんぽぽの家は、今年度改修して障がい者のグループホームとして活用する予定でしたが、設計を終えた時点で運営主体が明確でなくなったため、改修工事を見合わせております。その後の協議により、障がい者のグループホームは虹の郷を日南福祉会から町が借り受け、新たなNPO法人によって運営される予定となりました。現在、たんぽぽの家につきましては、地域の皆様が学習会等の会場として年数回利用していただいております。今後の施設の利用活用については、町として特段の計画がなく、どのようにするか、たんぽぽの家、そして今のおおくさ荘を含めて検討しているところでございます。

以上、近藤仁志議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（村上 正広君）再質問がありますか。

5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）観光協会の件について最初に質問させていただきます。先般の説明の中で、来年度、現在おられます会長初め、職員1名、合計3名のうち2名が退職されるということでありまして、ことし29年度当初スタートするに当たりまして、会長以外新人の方が2名の体制で、この観光協会の運営に携わってこられた実績が、実態があるわけですけど、その中でやはり新人の方が1年間事業をやっていく姿を見ていると、やはり1年通して研修中ですか、勉強中ですかという言葉が多く聞かれました。そ

日南町第2回定例H30年3月13日

れが来年度に当たって、また1名の方が残られて、2名の方が新人として募集されると。そういう体制でやられるというのを、その日南町の中の埋もれた宝であったり、今現在ある観光資源などを発掘するのに、やはり大幅な時間を要すりゃへんかということです。で、その今まで研修、勉強してこられた方のそういった知識が次の方にうまく伝わらない傾向にあるとやはり思うわけで、その点危惧される点はないわけでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）観光協会の体制につきまして御意見いただいたものと思います。

御指摘のとおり、今回、年度末をもちまして2名の職員が退職ということで、今、新たな職員の方を募集をしているところでございます。人がかわるということは、やはり少なからず影響というのはあるというふうに思っております。そういった中で、やはり企画課のいわゆる観光行政の政策部門として、しっかり引き継ぎ体制は職員の中でしていきながら、新しい方にもレクチャーをしていくというふうなことで、スムーズな人の移動というのを図りたいというふうに思っております。いずれにしても、地域資源、これまでいろいろと商品化してきて磨き上げた商品につきましては、それぞれのデータベースとして持っております。そういったものを早く覚えていただいて、商品をつないでいくというふうな観光協会の本来の業務を早く覚えていただきながら、さらに前に進めていきたいというふうに思っております。

また、これまで観光のガイドボランティアとして登録いただいた方々、それから観光協会の役員、会員の皆様にも協力いただきながら、滞ることなく事業を進めていけるよう努力したいと思っております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）今年度の実態を見ましても、各種事業を開催されました中で、ガイドを買って出れたのが会長だけという実態なんです。やはり日南町に来訪していただける方、移住定住も含めてですけど、やはり交流関係人口がふえるということは町内のにぎわいがふえるということでありまして、大変日南町にとって重要なことだと思うわけですけど、やはりその方を満足していただくためには、そういった機会に日南町をPRするガイドがいけないということ、そういった意味で自分たちもガイドをこの観光協会のほうでお願いしたわけですけど、やはり会長以外にガイドができなかったという実態があるわけです。そういったことを踏まえまして、ガイドができる観光協会でないじゃやはりいけないと思うわけで、そういうのを早々に構築できる心構えはあるわけですか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）失礼いたします。ただいまの御意見には若干違う部分があるのかなというふうに思っています。昨年は、新たな取り組みとして蛍のシャトルバスでありますとか、道の駅の1周年等も行っておりますし、さまざまな新しい事業に取り組んでおります。木下家のイベント等もそうですけども、そういった中で特にシャトルバス、それから道の駅でのボンネットバスあたりの運行に当たりましては、会長のみでなく、ガイドボランティアの方たくさん登録していただいております中の何人かの方に協力を実際いただいております。そういったことをやっぱり参加していただく中でしっかりガイド能力も上げていただくということで、極力いろんな方に御参加をお願いしているところで、実績としても参加いただいているところでございます。そういったことをやはり積み重ねていくことが、ガイドのさらなる内容充実につながると思いますので、引き続きそういった活動は続けていきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）この観光協会もまだ29年度の総会がないと思いますけど、29年度の事業計画の中において、多くの事業に対して企画策定、検討、検証というような文言がたくさんあるわけでありまして。やはり継続してよりよいものとして展開していくには、各事業ごとの検証が大変重要になってくると思うわけです。その点が十分できていると感じておられるのか、お伺いします。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）事業の検証ということでございますけども、29年度から観光協会の職員体制も変わりました。その中で、やはり役員会というのをしっかり行って、先ほど言われる事業実施後の検証でありますとか改善、次のアクションにつなげるというふうなことが大事だろうということで、本年度、29年度は既に4回の役員会を実施しております。3月中または4月の頭に最終の役員会、5回目を実施した上で総会を予定を

日南町第2回定例H30年3月13日

しておりますけども、やはり役員会ごとに事業進捗を報告をさせていただいて、終了した事業については、その反省、課題を出しながら、次の事業につなげていくというふうなことを繰り返しやっていく、この作業が大変重要だと思っております。そういった意味で、本年度から特に役員会の位置づけを重きを置きまして活動しておりますことを、御理解いただければというふうに思います。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）今の答弁で、役員会の中で検証やっておられるということですが、その中で、その事業に対する参加者であったり来町者、日南町を訪れた方の御意見など十分収集されて、それを踏まえて検討されてこられましたか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）町長の答弁の中にもございましたけども、事業の中で参加者の皆様に直接記入式のアンケートをとるところが、なかなか少人数の中でできかねておるともございます。ただし、先ほど申しましたとおり、それぞれの事業に観光協会の役員も兼ねていらっしゃるガイドボランティアの方に実際イベントに参加をしていただいて、現場で生の声を聞いていただいたりしております。そういった意味で、現場を実際に体験された役員の方からいろいろと参加者の方の意見もいただきながら、こういう意見があったよ、こういうところは直した方がいいねというふうな具体的なお話を役員会の中でできる環境になってきたなというふうに思っております。

御指摘のありますとおり、いわゆる検証に当たっての参加者、来場者の方の意見をしっかりとれる仕組みづくりというのは、今後やっぱり検討していかないといけないというふうに思っておりますけども、やはり観光協会の特に役員会メンバーがイベントに実際参加して生の声を聞くというふうなことは重要だと思っておりますので、そういったことを組み合わせながら意見なり、いわゆる来場者の方の意向をしっかりと受けとめれる仕組みをつくっていきたいと思っております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）アンケートをとるというあれでありますけど、やはり基本的にこの交流人口をふやしていくには、来町者、日南町に足を運んでいただいた方々がどういった目的で、なぜ日南町を訪れたのから始まって、やはり日南町に対してその状況であったり、景色であったり、食事、宿泊、そういった感想とか満足度というのは、やはり調べられる必要があると思うわけです。特に辛口のコメントこそが、日南町全体のレベルアップを図るのにどうしても自分としては重要な課題であると思っております。やはりオール日南の取り組みとして、この姿勢を民間の方にも協力していただきながら、このオール日南の姿勢で、日南町全体のレベルアップを図っていただく、そんな取り組みに持っていけないといけないと考えているわけですが、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）今、先ほど企画課長が申しましたけども、個別に、例えば食のバザールであるとか、それから先般は出荷者協議会の皆さんが道の駅に対する満足度というふうなアンケートをされました。ただ、やっぱり今言われますようにオール日南で、いろんな施設があるわけですが、それぞれでトータルにどういうふうな目的で日南町に来てどうなのかというふうなアンケートはできておりませんので、これはアンケート用紙を統一して置いて、数は少ないかもしれませんが、集めてくるとやっぱり相当な数になるというふうに思いますし、いろいろな御意見を賜れるというふうに思っておりますので、今度の役員会等にぜひともそういうふうなことをして、各主要な施設で共通のアンケートボックスを置いてお願いをするということもひとつ考えてみたいというふうに思います。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）やはりこの日南町がますますこういった取り組みに力を入れるという意味においては、やはりこのアンケート調査であったり、俗に言う辛口のコメントをたくさん寄せるということが必要だと思います。今後の取り組みに期待したいと思います。

次に、法人化、観光協会を法人化して運営に当たるという取り組みが書いてあるわけですが、この法人化に向けた道筋、また法人化をすることによるメリットについてお伺いします。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）法人化に向けてのスケジュール感といいますか、道筋という御質問でございまして、これまでの御質問にお答えした中にもございますけども、まず人間的な安定がちょっと30年度に向けても若干苦しい状態かなというふうに思ってお

日南町第2回定例H30年3月13日

ります。そんな中で、お隣の町も法人化をされたというふうになっておりますし、やはり観光をなりたいというふうな協会の目標でいいますと、そういったところがやはり目標を持った取り組みなのかなというふうに思います。県内ほかにもそういったところがあります。勉強させていただきながら、法人化に向けての取り組みはそういう方向性で進んでいきたいというふうに思っております。法人化のメリットということでございますけども、やはり一つには、いわゆる旅行業の資格を取って、観光協会みずから観光ツアーを組めるというふうなことでの動きがとれるというふうなことでの動きがとれるということ、大きく収益を伸ばすことができる事業が可能となるというのが大きなメリットだというふうに思っております。

また、逆に義務的なところからしましても、やはり収益事業をやっている、進めていく中では、当然税金をしっかりと払いをするというふうなことも視点に入れながら、ちゃんとした法人化を図った上で、そういった義務でありますとか、魅力的な活動を進めていける、そういったところが法人化というふうな考え方であると思います。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）税金を払うためじゃないけど、払う責任を果たすという答弁ですけども、やはり法人というのいろんな形態があるわけですけど、こういった法人を目指して設立に向けての準備をされておられるのか、お伺いします。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）法人の種別につきましては、こちらまだ方針は決まっております。近隣でありますとか、遠隔地でも県外でも頑張っていられっやるところの前例等、経験をお聞きしながら検討してまいりたいというふうに思います。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）こういった関係で、観光協会が強化されて、この日南町が元気になっていく。そして交流人口、関係人口がふえていくのは大変大事なことですけど、その中で農泊推進事業というので、その上に古民家活用ということで、今現在、活動されておられます民家の2つの古民家とあわせまして、木下家の活用ということで出ております。当然、自分たちもインバウンドの取り組みは大変今後重要になってくると考えるところではありますけど、その中にあってなぜ欧州インバウンドを目指されるのか、そしてフランス人にターゲットを絞られたのか、その点についてお伺いしたいと思います。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）なぜ欧州なのかというふうなことでございますけども、やはりそれは観光の目的、志向だと思います。やはりヨーロッパからのインバウンドのお客様というのは、いわゆる繁華街であったり、遊園地で楽しむとか、買い物を楽しむというよりは、自分の時間を自分の気に入った空間でゆっくり過ごすというふうな志向を持たれる方が多い。またはジビエであるとか、そういった自分たちの食生活に合った食べ物を求められるというふうなことがあります。そういった中で、近年、いわゆる田舎で、古民家でゆっくり時間を過ごす、ほかではできない体験をするというふうな、そういった志向というのが大きく取り上げられております。実際、そういった観光客の皆様の動きもデータとして出ております。やはりそういったところを狙った商品づくりというのが日南町の地域資源とマッチするというふうに思っておりますので、そこにやはり特化してインバウンドに関しては進めていきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）この中で、法人化した観光協会では情報発信、集客、顧客管理、旅行アレンジメント等を行うという計画を立てておられます。これが今までの事業を継続しながら、果たして本当に対応できるのかどうなのか。ただ絵に描いた餅で終わりはしないのか。また、そういった経緯を踏まえて、高い委託料がまた誰かに委託をしてその事業遂行をやってしまわれるんではないかという危惧するわけですけど、その点はどうでしょう。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）観光協会の法人化につきましては、決してそれが目的で無理をしてやっていくつもりではございません。やはり29よりも30、30よりも31というふうにしかりいわずに観光の商品をふやしながら、観光催事もふやしながら実績を出していった上で、体制についてもさらにお願いをしたいというふうに思っております。そうやってやはり体制と実績を積み上げることによって、最終的に法人化に向けて動ける体質ができてくるというふうに思っております。

ということで、法人化ありきというふうな考え方でなく、しっかりと成長していく観光協

会というのを目指して、方向性としては考えております。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）今、余分なお金を使ってコンサル等に頼むんじゃないかというふうなことがあったですけど、その辺について今答えてませんけども、そういう気持ちは持っております。

実は今回、道の駅を受けていただきました会社につきましては、どちらかという情報系の会社であります。今回も日南町で道の駅をやるというふうなことは、山陰と山陽、四国も含めてそちらを結びたいというふうな考え方をされております。

それと、先ほどのフランスなりヨーロッパの方々というのは、今、広島とか山陽方面までは来られておるわけでありまして、それを何とか日南町のほうまで引っ張ってこれないかなという話も含めてでありますけども、いわゆる山陽・四国の瀬戸内海沿岸から日南町へ来ていただくというふうなことを考えていきますと、そういうふうな民泊とかインバウンドというのは一番新しい指定管理者の方の会社についてもやってみたいというふうにおっしゃっておりますので、ぜひともそちらともうまく連携をして、具体的には、例えばこの秋あたりは、例えば道の駅プラスリング狩りとか、山陽方面ではリングというのはありませんので、リング狩りというふうなことで誘客が図れないかというふうな計画をされておりますので、そういうふうなことも含めて検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）期待をするわけでありまして。まだ物事進んでいないうちにどうこう言うことはありませんけど、また、その姿勢について疑義が生じたらまた質問させていただきますと思います。

で、特にこの木下家を運営する上において一番大切なのが、地域を巻き込むことでないかと思うわけです。先ほどの鳥大の連携事業発表があったわけですけど、その中で五角形のチャートを使って発表されました学生がおられました。大変おもしろい検証の仕方だなということで自分も感じたわけですけど、その中で成功の必須としての位置づけとして、地域の理解、地域の参加というのが一番に上げられるという結論を持って締めくくられました。特にまた失敗する大きな要因として、行政の支援が突出するという状況が心配され、懸念されていまして。

この木下家を今の状態の計画などを見てもみますと、行政の支援がちょっと突出して、行政が先走っていて、地域に情報が流されたり、また協力依頼したり、企画からですよ、ただ事業するために人夫として協力してもらおうということできなしに、ソフト面も含めて地域を巻き込んで考えるという姿勢、そういった体制がとられておられるのか、お伺いします。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）議員おっしゃるとおりで、やはりああいった、特に古民家ですとか、いわゆる地域の中にある資源というのは、地域の住民の方と一緒に頑張って磨き上げていくということが、やはりその後の観光活用に重要な要素だというふうに思っております。

木下家については、29年度、急な展開で町が取得をするというふうな流れの中で、当面、観光協会が主体となって、お掃除のイベントから始まって、オークションというふうなイベントをさせていただいたところですけども、お掃除イベントも含めまして各地域の方には御参加をいただいております。地域を挙げというふうな動きにぜひともつなげていきたいというふうに、行政のほうも観光協会のほうも考えておるところでございます。

やはり昨年モニターツアーのような形で、大宮のほうの古民家でも農業体験というのをさせていただいたんですけども、その中でもやはり地域の、御近所の方が集まっていたいて、稲刈りからもみすりまでを昔どおりのやり方ですというふうなことを、わいわい皆さんが言いながら、言われながら、こげだったよなみたいなことで地元の方も一緒に楽しみながらおもてなしをするというふうなイベントを、大変心強く、また魅力あるものだというふうに思いました。そういった活動になるように、やはり地域と一緒に進めていくことが大事だというふうに思っています。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）いや、大切だということはわかるわけです。ただ、これが大変急がれるということです。やはり町が、行政が先行してやったら、あれは町がやるだけえというふうな雰囲気が出てくるわけで、要するに住民が冷めるという、冷めてくるということを危惧するわけです。やはり住民と一緒に、この木下家であったり、これ

がひいては日南町の財産として外からのお客さんをお呼び込むための資源としてやっていくには、行政で計画して金銭的な支援をしたり、人的支援をしたり、そういうことをするよりも、早々に緊急に地域の方の理解を得るという取り組みを一番取り組んでほしいわけですが、どうでしょう。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）それについては、地域のほうとも協議を進めたいというふうに思います。実際、阿毘縁地域におかれましても、ここ近年ですけれども、いわゆる御墓山であるとか猿隠山であるとか、そういった登山の観光資源に対して地域のほう、むらづくり協議会のほうで活性化交付金を要求されて、樹名板を設置されて登山道の魅力化に取り組んでいらっしゃると思います。そういったやはり地域資源を磨き上げるというところにつきましては、大変深い御理解をいただいているところですので、やはり木下家も一つの貴重な地域資源だというふうなことで御理解をいただきながら、活用なり今後の使い方、観光振興にどうかかわっていくかということについては、一緒になって考えられる体制をつくってまいりたいと思います。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）それと、地域の理解を得ながら、また得ているというふうな若干のニュアンスの発言でありましたけど、やはりその地域の方の理解というのが一部役員であったり、一部の方でないように取り組みをしていただくとことを期待しておりますけど、先ごろ日南町が人口5,000人以下の町村で移住したい町村、全国で6位にランキングされたという報告を受けて、大変喜ばしいことだと思います。ただ、私たち町民にとっては何でそういう上位にランキングされたのか実感がないわけですけど、その何を評価されたのか、またその内容はどのようなものなのか、もしわかりましたら知りたいわけですけど、よろしくお願いします。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）ランキングに関するちょっと資料を今持っておりませんが、基本的にはアンケート形式で100項目ぐらいのアンケートに答える形で評価を受けます。その中には、いわゆる町内に病院があるとか、それからインフラでいいますとコンビニがあるとか、こういった生活支援サービスがあるとか、そういったやはり暮らしやすさというのを評価をする項目によって、ポイントがついて評価が決まります。

今回、5,000人以下というふうなちっちゃなくくりでの評価は初めての取り組みということで、やはり特に生活インフラあたりにつきましては、例えば1万人、10万人のまちと市と比べられても、やはり劣る結果になるのはもう目に見えております。やはり一定規模までのところでのくくりで評価をしていただくことによって、今回こういった結果が生まれたというふうに思いますので、こういう規模の町の中では、やはり暮らしやすさが高いというふうな評価になったというふうに思いますので、町としてもうれしく思っておるところです。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）ランキングが6位に上位されたということ、それは大変ありがたいことですけど、ただそれがなぜその6位という上位にランキングされたのか、その実感が湧かないわけなんです。それを行政のほうも十分検討されて、ここが売りなのだ、ここがだめなのだ、そういった姿勢が大事だと思うわけなんですけど、どうでしょう。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）私、今のふえている、6位というふうなものの中で、やっぱり一番大きいのは、やはり地域がオープンマインドで受け入れていただいたということが一番大きいというふうに思っています。やはり田舎自体、なかなかよそ者とか若者をなかなか受け入れがたいという部分があるんですけども、これまでの、先般もこれは総務省の調査なんですけども、平成12年から平成27年まで、都市部から30代の女性の移住者がふえているのは県内では日南町と琴浦町だけだというふうなことを申しましたけども、実は30代の男性もふえておるというふうな実態が出ております。それは、一つには、今言いますように、やはり地域が受け入れていただいて定住が進んだということだと思っております。

それともう1点は、特に担当職員が、やはり皆さん来られる方が空き家等見に来られるんですけども、大体土曜、日曜であります。やはりその辺よく言われたのが、違う県のところに行ったけども、土曜、日曜では案内できませんと言われたけども、日南町では土曜、日曜でもどうぞというふうに言われて案内してもらって、非常に感じがよかったとい

うふうなことも言われたケースも私も一つ聞いておりますけども、やはりそのように両方が行政なり、それから地域が両方うまくカップリングできたというふうに、それが一番評価の高いところではないかなというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）先ほど申しましたけど、鳥大連携のときの五角形のチャートを使った検証ということですけど、そういった面においても、やはり住民の理解、これはいろんな形での項目を設定することはできるわけなんですけど、こういったランキング上位された、それをどういう形で図式化してランキングが上位に上がったということをややはり検証してみる必要がありやへんかと思うわけなんです。

それと、この五角形のチャートというのが大変おもしろいなと思ったのは、いろんな面で利用していくことができる。自己分析もだし、また人事考課においてでも、いろんな形で項目を変えさえすれば、いろんな面で図式化できるんじゃないかな。簡単に5項目、6項目でやったら、その面積がふえたら成功だという例という形で、今後こういう形を取り入れている面でやられるというような考えは、町長はお持ちではないわけですか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）五角形の話でありますけども、これは多里地区の成功例のものだと思いますけど、いわゆるこの中で一番五角形で、いわゆる五角形の中の満足度の中の高いのが住民の理解があると、それから住民のつながりがあると、そして外部からの働きかけがあると、この3つが非常に高い評価を受けた成功例であります。その次に、少しそんなに低くはないんですけども、行政による支援というのはどっちかというとなんか十分なくても、今の3つがあれば大体いけるんだろうと。それから継続性というのは、ちょっとこれは本当はもうちょっと高くてもいいのかなと思うんですけども、これをちょっと低いというふうには書いておられますけども、そういうふうなやはり住民の理解と、そしてつながりと外部からの働きかけというふうなことがあれば、やっぱり確かにそうなんだろうなというふうに思っております。

あとの後段のUターン等もそうでありますけども、移住者につきましても、そのようにやはり住民の理解と、そして観光も含めてでありますけど、全てのことに言えることは住民の方々の理解と協力というふうなこと、また、できれば主体性を持っていて活動していただくというふうなこと、それに対して行政が黒子になってバックアップするというふうなことで、それがやはり全てのことについて成功につながるのではないかなというふうに認識をしております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）全く自分もそのとおりだと思うわけですし、先ほど質問しました木下家の今後の取り組みについてでも、住民の理解が喫緊ですよというのはここにあるわけなんです。行政の支援というのは、後からついてくるといふぐらいのところがやはり住民の理解が先行する、住民同士のつながりが先行する、それがマスコミであったり、参加された方に発信されて外部への働きかけとなって動く。その足らないところを行政が支援をしていくというような姿勢が、やはり成功の事例として各地で見られるわけなんです。やはり行政の支援からスタートしたら、やはり住民が引くというのを心配するわけなんです。だからそういった意味において、このこういった五角形とか、この項目はその事業によったり目的によって変えていいわけですけど、そういった使い方というのは大変自分は重要だと思うわけで、前から同僚議員が、やはり図式化するのがやはりみんなで分析しやすいし、わかりやすいということをあれしております。やはり言葉で文言として残すよりも、こういった図式で残すほうがまよかしがきかないと思うわけなんですけど、その点どうでしょう。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）ちょうど先般、日曜日にたたらフォーラムというのが日南町の文化センターで行われました。150人ぐらいの方が集まいただきました。大変私自身も興味深く聞かせていただきました。その中で、やはり地域の方も大体町内の方が4割ぐらい、町外の方が6割ぐらいだったかなというふうに思っております。特に皆さんが興味持たれたのが、やっぱり木下家の歴史とか日南町のたたら文化の、いわゆる名家と言われた方々の変遷みたいなものも非常に興味深く聞かれておりました。そういうふうなことを考えると、やはり地域に対してある程度の、どういいますか誇りとか歴史を、自分たちのルーツを知りたいという気持ちは非常に強いのだなというふうに感じましたので、そういうやはり気持ちを皆さん持っていていただいておりますので、木下家等についても、今、議員が言われたように、地域のある程度主体性を生かしながら活用してまいりたいというふう

に思うところであります。

また、図式化、五角形というのがありますけども、例えば日南町でいいますと、人事考課等にも既に使っております。そして職員採用では六角形というふうな図式を使って採用試験等も行っておりますので、なかなかまだ全部に対してのこととはあきらめられませんけども、できましたら先ほどあった5,000人以下で全国6位というふうなところの満足度というふうなところも、例えば本当に地域の方々が誇りに思っていて、外部からのその評価というのでもやはり出してもいいのかなというふうに思いますので、そういうふうなところもぜひともみずからPRをすることでもやはり大事なかなというふうに思いますので、広報等でもそういうふうなPRをしながら、やっぱり俺たちの地域はいいところなんだなというふうなことを思っていたらいいような、自信を持っていたらいいような町づくりを進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）僭越で申しわけないですけど、自分たちの蛍の取り組みについて大変外部からの評価というのは、モチベーションを保っていくのに大変心強く思っております。発足当初うかが、外部に発信するようになってからアンケートを絶えずとり続けて、それをまた一冊の本にまとめてみんなで見れるような状態にしとるわけですけど、やはり辛口のコメントもあるわけなんです。それはもごくわずかで二、三%にしか過ぎませんけど、でもやはりそれが今後改善するのに大切だということで、それを注目しておりますし、また反面、大変よかった、きれいだった、また来たい、大事にしてください、そういった声はやはり保護活動をやっていく、また受け入れてガイドをやっていく上において大変モチベーションをいつまでも保っていける要素となっております。だからそういった意味においても、この日南町が全国の6位にランキングされた、その実態、内容を十分検討されまして、町民の方にもぜひ知らしめてほしいと思います。

続きまして、道の駅のことですけど、このたび新たな指定管理者が決定されまして、その事業計画などをこのたび出されておられます。その中において、自分も大いに期待する面が多々あるわけです。大変よくこの道の駅、異業種から参入されてよく勉強されているなという感じがしとるわけですけど、その中で現時点では委託販売となっていると。で、今後、今現在の問題点として、売れなければ生産者が回収という点で、出荷数のある程度減になっていはいないかというような文言が入っております。これは案と、今後出荷者協議会との協議が必要になるかとは思いますが、案として委託販売から買い取り販売に移行したほうがよいではないかというような事業計画として示されているわけですが、そういった意味において、今まで当初からは委託販売という形でやっておられまして、自分たちが自分の商品に対して自由に価格設定をして販売するという形態であったわけですけど、これが委託販売から買い取り販売に変わることに対しての問題などを想定されることはあるわけですか。

○議長（村上 正広君）久城農林課長。

○農林課長（久城 隆敏君）まず、出荷者協議会の皆様とも今現在、いろいろなお話をさせていただいておりますので、一つには、御提案のほうも今、議員のほうからありましたような、いわゆる契約販売というようなこともお話が出ておりますけど、ただ、出荷者協の中にはまだ委託販売を望まれておられる方もいらっしゃいます。いわゆる自分で自由にいわゆる商品に価格がつけられるという面です。したがって、そのあたりにつきましては、いろいろヒアリングをされていかれまして、いわゆる最善の方法を今後1年かかるかもしれないけど、いわゆる性急に自分たちの考えを押しつけるようなことはやめたいというふうにもおっしゃっております。

一つ契約販売というようなことになっていった場合に懸念材料といたしましては、先例もありますけども、いわゆる商品としての質が落ちること、いわゆるどんなものを出しても買い取っていただけるということで、そういったような懸念材料も一方であるわけですので、十分にそのあたりにつきましては今後検討してまいりたい。その中でいわゆる出ておりますのが、いわゆる契約栽培などについても検討してみたい。それは岡山市内を中心に、いわゆるスーパーあたりとの契約も視野に入れられてのことでもありますけども、そういったようなことにも今後検討していきたい。ただ、朝どれ野菜というグループもありますので、そういったような皆さんとの今後の話し合いも必要になってまいりますので、いずれにしても日南町の最善の方法というのは、今後出荷者協議会の皆様、農家の皆様と一緒に検討してまいりたいというふうに考えます。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）この道の駅が開店当初より自分もこの一般質問の席で言っ

日南町第2回定例H30年3月13日

たわけですけど、要するに売り先を十分確保する方法を考えてオープンしないと心配だということも、販路を探る前に、価格などいろいろな不安定要素がある中でそういった動きをさせているということ、大変期待するわけです。やはり安心してつくって、安心して収穫して、安心して出荷する、そういう形でないとやはり広がりというものはないと思うわけなんです。ここにはブランディングという言葉が使ってますけど、このブランディングというのは、自分とすれば日南町をブランディングしてほしいわけなんです。やはりこの道の駅はマーケティングからスタートしてもらって、その中において日南町がブランディングできたと思うわけで、道の駅はツールとしての活用として、日南町をブランディングするためのツールとして道の駅を活用するという考えはどうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）今、本当に言われるとおりにだと思っています。例えば、一つの例を言いますと、日南トマトというのはもうブランド化されておるわけでありまして、道の駅ができるまでは、例えば日南町に来て買う場所がなかったりして、なかったわけですけど、今では道の駅ができたために、そこで日南町に来て買うことができるというふうな状況ができております。実際日南町には鶏も、鶏肉、牛肉、豚肉とあるわけでありまして、それが全て実際は日南町産でありますけども、それが違うブランドになっておいたりするというふうなこともあるわけでありまして、それはやっぱり日南ブランドとしちゃちゃんとブランディングされていくと、やはりより付加価値がふえてきて、同じものをつくっても例えばピーマンでも日南町がブランド化されれば、ああ、日南町のこれはピーマンか、多分おいしいだろうなというふうな、やはりそういうイメージアップにつながっていくわけでありまして、そういうふうなことができた中で、その一つの売り場として、日南町に来たときの場合として、やはり道の駅があったり、それからそこからの情報発信というふうなことができるのが理想であるというふうに思っておりますので、ぜひともそういうふうなことになるように指定管理者の方とも連携を持ちながら、道の駅の活用というふうなことも考えながら進めてまいりたいと思っております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）先ほどの話で、午後に出荷者協議会と新しい事業者との、何か、意見交換会みたいなものが催されるということですけど、やはり一番は委託販売、買い取り販売がいいのか悪いのか、委託販売から買い取りになるのが生産者協議会の中でどうなのかというのが一番なわけで、その中において1年間はモニタリング、1年ぐらいかけて検証されるんじゃないかというような答弁でしたけど、これが買い取り販売と委託販売と、これは両方を同時進行でやるというような体制はとれると考えておられますか。

○議長（村上 正広君）久城農林課長。

○農林課長（久城 隆敏君）その方法も可能であろうというふうに思います。それも含めて検討されるというふうに認識しております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）この中で、出荷者協議会、生産者の方の所得が上がることを目標というぐあいになってあります。大いにそういうことを念頭に置いた取り組みを新しい事業者には期待するわけですけど、続いて移住定住についてであります。当初申しましたけど、やはりUターンに対しては不特定多数、誰でもいいから発信すれば発信しやすいというかな、日本全国どこに出してもUターン者でありますので、ほとんどの方が。ただ、Uターンに対しては、Uターン者の方には日南町出身でなければいけないという実態もあるわけで、なかなか情報発信というのが自分ではできていないんじゃないかなというのが大変思っておるわけです。Uターン希望者の希望というかな、を考えておられたり、何かきっかけがあったら帰ってみたいという方、自分、結構おられるんじゃないかなという体感では持っているわけなんですけど、そのUターンを検討している、きっかけがあったら帰ってみたいというような方が何を一番情報として知りたがっておられるのか、どのように捉えておられますか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）先にちょっと、今、Uターンでちょっと検討していることをちょっと若干話させていただきますけども、できたら今、ふるさと納税で同窓会が開けないかなというふうなことを思っております。幹事が非常に難しいんで、その辺がうまく飲食業の方と結びつけられればなというふうには思っておるんですけど、いわゆるふるさと納税で、

日南町第2回定例H30年3月13日

会費ただで実際には同窓会が開ける。なおかつ幹事役が、例えば若干の手数料で業者の方
にお願いできたりすると、非常にやりやすいのではないかなと。言い出した方が幹事をや
るとなかなか大変な部分があって、そういうふうなところで、例えば年代別の同窓会が開
けたらいいなと。

例えば、仮に30代で、30歳の記念に例えば同窓会をしたとすると、やっぱり世代世
代によって得たい情報が違うと思うんですね。30代の方ですと、例えば子育てである
か、例えば結婚であるとか、それから仕事というふうなことで、例えに言うとならば自
分の家族のため
であります。そして50代、60代ぐらいになると、仮に言うとならば自分の家族のため
の扶養をするために一緒に同居しようとか、そういうふうなことの情報が知りたくなっ
てくる。また、リタイアされた方だと、例えば老後の関係なので、介護の状況とか、例
えば医療の
情報等が知りたいというふうなことがあるわけですが、それが例えばふるさと納
税で、こ
ういうふうな形で例えば30代の方がやりますよということだったら、例えばそ
の方に合わせた、その世代に合わせたような例えば情報をうちのほうから送ると、多分、
ああ、日南町にもこういう仕事があるのか。こういう選択もあるなあと。

少し例えば給料は、仮に言うとならば今もらっているより5万円安くなるけど、例
えば子育て
支援とか通学対策とか、いろんなことで、それから住居費等が必要なくなるので、その分
だったら安くても実際にはもうちょっと、5万円安くなるけども、実際には今の生活的に
は10万円ぐ
らいの楽ができるというふうなことがあると、もしかしたらUターンとい
うふうなこ
とも願えるかもしれないというふうなことも思うわけでありまして、今そうい
うふうなこ
とちょっと情報ができないかというふうな検討をしておるところでありますので、
そういうこ
ともできれば思っておりますし、今言われますように、仮にそれができなくて
も、例
えば同窓会をされるというふうなことがあったときには、そういうふうな情報は積
極的に発信
をして、ぜひともUターンの方々に来ていただきたいというふうに思っており
ます。若
干町内でも実はUターンの数もふえております。これはやっぱり一つにはUター
ンの方
々もふえてきたということで、その方々が呼び水にもなったんじゃないかなという
ふう
に認識をしておるところであります。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）ちょっと自分、今、同僚議員聞いてはっきりしませんけ
ど、か
つてふるさと納税で同窓会というように取り組みを町長が提唱されて、1年間予算
化されて
やったわけですが、ただ利用者がなかったということで、次の年度には何か予
算計上
されなかったという経緯があるわけですが、そういった意味で、その年度のなぜ
な
かったというのを十分検証されておられるということでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）初年度については、いわゆる町内でという限定をしたわけであり
まして、な
かなかそれが難しかったということがあります。やはり町内に限定すると人数
も限られ
ますし、場所も限られるというふうなことがあったり、飲食を伴ったときに、例
えば車
の手配とか、いろんなものがなかなか難しかったというふうなことがあって、なか
なか集
まりづらいた。例えば、米子市等であればできるよとか、大阪だったら大阪に出て
いる人
たちで、仮に10人程度だったらできるけどもということではあったというふうに思
っており
ますので、若干その辺も幅広にして、例えば米子でやっていただければ、言葉と
しては悪
いですが、ちょっとこれは要らんことかもしれないですけど、二次会、三次会
と行っ
ているうちに、例えば独身同士の方が意気投合して結婚対策にも結びつけばいいな
なんて
よこしまな考え方も持つわけでありまして、そのようなことも含めて若干幅広に考
えてや
っていったほうがいいのかなというふうに思っているところでもあります。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）大変町長の期待は大きいというので、ただそれが今のとこ
ろ絵に描
いた餅であるというところは理解しておるわけですが、このふるさと納税で同窓
会とい
うの、大変いろんな機会を持って日南町の雇用情報であったり労働条件などを発信
する。そ
れから、生活費、要するに普通一般的に生活する上においてどれぐらいの必要経
費があ
るのか。また、買い物するのに米子までどれぐらいというふうな一つの指針とい
うかな
、一つのチャート、図にしたものであったり、絵を作成して、そういったものをU
ター
ン者、全然こっちからは町内から出られた方に発信する、それは年代ごとでいいで
すし、
またターゲットを絞った発信の仕方でもいいわけですが、その点どうでしょう。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）今、御指摘のありました、町内のいわゆる事業所紹介であり
ますと
か、いわゆる平均的な給与でありますとか、生活費、生活圏等の情報につきまして

は、昨年度作成しました町の移住定住のホームページ、まるごとバンクまたはほぼ同様の内容でつくっております移住用のパンフレットにそういった内容は網羅しております。ということで、いわゆるUターンの方等を目的とした移住フェア等ではそれを活用させていただいておりますけども、やはりUターンを進める中で一番ネックとなる部分が、Uターンの方とつながるチャンネルがないというのが一番ネックだと思っています。そういった意味でなかなかこれまで同窓会企画につきましても一歩が進まなかった状況もありますけども、やはりそういったところが一つのチャンネルだというふうに思っていますので、そういったところに向けて既存の情報をしっかり出していったつながっていきけるような形をつくってまいりたいと思います。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）やはりUターンの方に比べまして、Uターンの方が定住率はどうしても高いわけですし、また、この町内に帰られたときの生活費なども、実家のほうに住まわれたら、大変安く生活最低必要経費というのが低く抑えられるわけでありま
す。やはりそういった意味において、どんどんもっとUターンの方に情報を流せるシステムであったり、そういったチャンネルが今ないと言われましたけど、チャンネルづくりをやっていただきたいと思います。大いにこれは必要なこととは思っていますので、Uターンに比べてUターンの取り組みが若干自分はおくれているのではないかと、手探りでなかなかどう
いう形で進んでいいのかわからないというような状態なのかわかりませんが、そういった感じ見れますので、ぜひ今後も大いなる取り組みを期待します。

続きまして、おおくさ荘のほうでありますけど、このおおくさ荘があるところが要するに山上地区にとっては中心地域なわけなんです。そこがもうこの1年間、特に1年間です
けど、車、人の往来がない、ただ大きな立派な建物が建っているという状況、俗に言え
ば、はっきり言って行政が廃墟を持っていると、そういうような雰囲気さえとられて、
大変閑散とした景色を醸し出しているわけなんです。

それにあわせまして、その前にあります前庭というか広場、年々荒廃化、草が生えたり
して荒れていくのはもう目に見えているわけでありまして、大変この活用について早急な
取り組みが必要と思うわけですが、その点どのように取り組みを考えておられるわけ
ですか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）若干前の答弁と重複するところがあると思っておりますけども、た
んぽぽの家につきましては、今のところ地域で活用していただいたり、例えばお試し住宅
としての活用というふうなところで活用ができるのではないかなというふうに思ってい
ます。ただし、おおくさ荘につきましては、今のところ本当に行政としての今、案がない
というのが実態であります。

ただ、山上地域におかれましては、相当数のところが、例えば農業生産法人等を持って
おられまして、そういうところの例えば集合オフィスとか、そういうふうな一つというふ
うな声も若干聞いておりますので、地域としっかり協議をして進めたいというふうに思っ
ております。どちらにいたしましても、やはり長く閉めたままにしておきますと荒廃が進
むだけありますので、早急に地域の皆さんと協議をしてまいりたいというふうに思っ
ております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）昨年も今後の利活用について、地域と相談してまち協など
に話しかけていって、利活用について検討していきたいという答弁をいただいております
記憶があるわけですが、この1年間、その地域との相談というの、それから意見収集などは
できたわけでしょうか。

○議長（村上 正広君）梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）おおくさ荘の活用につきましては、福祉保健課が管理の
担当をしておりますけれども、この1年間、活用方法について地元の方と協議というのは
できておりません。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）地域の方の話を聞いても、やはり福祉保健課の所管だとい
うことは、やはり何か今後も福祉のほうで活用する考えが町のほうであるのではないか。
やっぱり話をしても無駄だわというような、それとこのたびあさひの郷が設立から10年
経過してないので、目的外使用というかな、そういうのに制限がかかるというような情報
が流れた関係上、やはりこのおおくさ荘もたんぽぽの家も、目的外使用ができないではな
いかというような雰囲気であったわけですが、これはもう目的外使用、要するに当初の

建設時の目的外の使用も十分可能であるというぐあいに認識して結構ですか。

○議長（村上 正広君）梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）両施設は、建設後、活用を10年以上しておりますので、そういった補助金の制約は受けないと考えております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）この活用され、もし地域の方に諮っているいろんな形で活用したいというような方があった場合、これは個人でも結構なのか、公益性を持った者でないといけないのか、団体でないのかというような、そういった考えのくくりなどは持ち合わせておられるわけですか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）別に個人でもグループでもいいわけですけど、いわゆる公序良俗に反しない、それからもう1点は地域としてそういう活用でいいよという、例えばまち協等で協議がなされてオーケーであれば、それはそれでいいというふうに思っております。行政としては、先ほど福祉保健課長が申しましたように、別段の今のところ制約を持って考えておるわけではありませんので、そのような活用方法が生まれてくれば非常に私どもとしても喜ばしいことだと思っておりますので、ぜひともそういうふうな前向きな検討をしていただきたいと思います。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）おおくさ荘は現在、避難所として登録しておられるということ、また、たんぽぽの家は介護予防施設として必要時に使用することとなっているということで、おおくさ荘はほとんど1年間、避難所でありますので災害等もなかったわけに使われておりませんが、介護予防施設としてたんぽぽの家がこの1年間、設計変更、要するに障がい者グループホームなどに変更するための設計業務に入っておられた経緯もありますけど、このたび、この1年間でたんぽぽの家を使われたというような実績はありますか。

○議長（村上 正広君）梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）まちづくり協議会さん等の学習の場として、年二、三回利用いただいたと記憶しております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）で、そうした場合、仮にたんぽぽの家も含めて利用したいという個人であったりグループがあった場合、そのたんぽぽの家も含めて貸与というのは、今、年に二、三回使われた方などの理解がとれるとお考えでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）それもアリだというふうには思います。ただ、一つやっぱり考えなくちゃいけないことは、やはりその施設を利用される方が、例えば同じようにやっぱり年二、三回の利用ではたんぽぽの家も、例えばなかなか維持ができないと思っております。一つの例として、例えば新たな就業、例えば農業生産法人が新たな外部からの例えば就業の方を受け入れられて、その方の例えば宿舎としてそういうふうに使おうというふうなことは、終年使われるわけありますので、そういうふうな使い方ができれば非常にいいんじゃないかなと。地域としてもそういうふうなことがいいよということであれば、そういうふうな使い方はあり得るのかなというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）いうことは、この利用条件というのは大変緩やかな考えだというぐあいに思っておるわけです。自分たちもいろいろ山上地区の中心地にある大きな施設で、まだ十分使用にたえ得る施設であると思っております。いろいろ知恵を絞る中で、今後特に農業法人など地域を守っていくグループとして、このたび30年度に力入れておられますインターンシップの受け入れのための施設であったり、それからこのたびはモンゴルの留学生などを検討されるようですが、外国人就労者、やはり就農者、やはり自分たちも農業法人をやっていく上において、大変農村の環境維持というのに手を焼いております。そういった意味において、やはりもしそういった関心のある外国人就農者でもおられたら、そういう方の宿泊施設であったり、また研修施設などに使えたらなというような考えも持っておるわけなんです。そういった中において、個人の仮に一つの会社であったりでも貸し出し可能だということで、もしそれが可能であれば、その点の維持管理費というのは、今現在、維持管理費が大体年間、光熱水費で47万4,000円かかっているというふうな資料提供をいただいております。当然避難所でもありますので、電気を切るわけにもいきませんので仕方ない、やむを得ないと思っておりますけど、それ以外に周辺維持として多

分草刈りなどに何がしのお金が支払われると思いますけど、これを個人に貸し出す、グループに貸し出す、団体に貸し出す、法人に貸し出す、そういった中において使用料というのはやはり発生するわけでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）原則的には発生するというふうに思っております。実費程度はやはりいただきたいなというふうに思っております。いろんな例えば火災保険料であるとか、光熱水費であるとか、そういうものについては個人であろうとグループであろうと、いろんな他の施設の関係もありますので、それはいただきたいなというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）当然光熱水費、そういったものは、それは当然中に入った方の負担になろうと思いますけど、火災保険とかいうのは、今いろんな施設においてほとんど町のほうで、町の施設は町のほうで掛けておられるというぐあいに認識しておるわけですけど、それ以外の要するに土地、建物の賃借料というかな、そういうものが発生しないと貸せることができないのかどうなのかというのを伺います。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）原則として、町のいわゆるそういう似たような施設があるわけがありますけど、そちらのほうから今の必要経費以外のものをいただいておりますがごさいませんので、多分そういうふうな他の施設と同じような均衡を図った形になろうかなというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）時間も大変少なくなってきましたけど、自分のこのたびの質問は、やはりこの日南町というのがいかに、増原町長が3期目を迎えるに当たりまして、大変いろんな意味において苦境に立たされている、大変厳しい状況に立たされておると思うわけです。やはりそういった中で、行政のほうが確信と信念を持って物に当たっていただきたいと。その信念、覚悟というものを伺いして、自分の質問を終わらせていただきます。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）ありがとうございます。大変いろいろ御示唆に富んだ質問をいただきました。行政のほうのしっかりとした信念というのは持っていきたいというふうに思っておりますし、こういう方向に進むんだという確固たるものはお示ししたいと思っております。ただ、やはり議員が言われましたように、やっぱり主役の方は町民の方でございしますので、町民の方々の御意見もしっかり受けとめて一緒になって進めていけるように、行政だけが先走って進んでいかないうに、一緒になって進んでまいりたいというふうには思っております。

○議長（村上 正広君）関連質問がありますか。

10番、古都勝人議員。

○議員（10番 古都 勝人君）2点、関連で質問をいたします。

同僚議員の一般質問の中で答弁されましたけれども、いわゆる1ターンあるいは農業研修生あるいは観光協会の職員いう、全てに関係すると思いますが、今回、観光協会でする職員を求められると、教育の機関も要するというお話なんですけども、今回、退職される方については、本来農業研修生でおいでになった、1年経過して道の駅の販売員されたこと。そして観光協会に移られたということで、1ターンで所期の目的でおいでになったことで退職されるということではないと、私はここに若干の不満があるわけなんですけども、今回観光協会の職員を募集され、これが町内の方か町外の方かまだわかりませんが、ある程度長期的に採用されて、勉強もされながら、今の動いておる観光行政をいわゆるスピードアップしていただくと、そういった点について職員採用が非常に大きなポイントだと思いますが、それについての所見を伺いたい。1点でございます。

もう一つ、Uターンの関係で同僚議員の質問の中で同窓会というような言葉も出しましたが、かつて30年前には町人会をつくりまして、そのときの会員の今は約3分の1になっておると思います。で、そういったところの増強といいますか、補正登録といいますか、やられるべきじゃないかと。町人会の中でも一度は大阪からバスで帰られて、日南邑で同窓会をされる、ある方は出身の家で泊まれる、家がない方は日南邑に泊まれたという経過もございまして、それと、町人会の席上で同級生が集まって同窓会をされたことは何回もあるわけですし、そういったところの補正点検をされて、そこから芽を出して、先ほどお考えのあった、いわゆる町内で同窓会でいわゆる町に帰ってくるきっかけになるよ

日南町第2回定例H30年3月13日

うな働きかけというようなことも必要ではないかと思いますが、この2点について所見を伺います。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）まず、観光協会の職員でありますけども、今回やめられる方の1人については、本当に農業研修生から、それから道の駅のほうのお手伝いをいただいて、また日南町に残っていただいて観光協会ということで、非常にいいパターンだなと思っていたんですけども、寿退職ということで町外に出られる、行かれるということで残念だなと思うけども、お祝いを申し上げたいというふうに思っております。

やはり先ほど今言われますように、長期的なことを考えると、できれば町内の方を採用したり、また、ある程度日南町のことを知った方をやはり採用するというのが原則だというふうに思っておりますので、実際私が面接するわけではございませんけども、それが一つのキーポイントにもなるというふうに思っております。

それと、Uターンでありますけども、本当に町人会、先般も実はあべのハルカスでやりました。物販につきましても、関西町人会の方々が来ていただきまして、大変買い物を積極的に行っていたというふうな報告は聞いております。また、町内でも山上会であるとか、福栄会であるとか、多里会であるとか、そういうのが別々にそれぞれ開かれておりますので、そういうところも実際にはターゲットとして一ついいのかなというふうに思っております。なかなか町人会自体も高齢化が進んできておりまして、今、古都議員がおっしゃったように、かつての3分の1ぐらいになっておりますし、60代、70代、80代の方が中心になっておりますので、今、若い方々に呼びかけて、最近では40代の方や30代の方々も入っていただいたり来ていただいたりしておりますので、だんだんだんだん少し若返りが図られてきたのかなというふうに思っております。そういうふうなところにピンポイントでちゃんとした情報を発信をしてまいりたいというふうに思っておりますので、そういうふうな地域の情報もありましたら、ぜひともまたお教えいただければなというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）以上で近藤仁志議員の一般質問を終わります。

○議長（村上 正広君）ここで暫時休憩をいたしたいと思えます。再開は10時50分といたします。

午前10時34分休憩

午前10時49分再開

○議長（村上 正広君）休憩前に引き続き会議を再開いたします。

タブレット2ページ、一般質問を引き続き行います。

8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）増原町政3期目スタートの施政方針の中で、外国人就労調査研究についてと、平成25年より問題発生しております、いまだ未解決のセントラルファーム農場の環境問題の2点について質問いたします。

まず、1点目の外国人就労調査研究についてであります。最近の外国人技能実習生の出身国は、第1位がベトナム、2位、中国、そしてインドネシア、タイ、ミャンマーと東南アジアが中心であるが、なぜ実績の少ないモンゴルを選定されたのかをお伺いします。

去る2月28日と3月3日に新聞報道がありました。今後の進め方及び取り組むべき重要な課題は何かをお伺いいたします。

2点目、セントラルファーム農場の環境問題についてであります。日南町、セントラルファーム株式会社及び銭神山川農業用水関係者の三者による公害防止協約書の締結に向けた進捗状況をお伺いします。

また、昨年8月に鳥取大学農学部による日野川水系における水質と調査報告会で、今後の課題とされた5項目のうち、森林開発地周辺から流出しているであろう高濃度マンガンの発生場所の特定について、その後の取り組み状況を伺います。

最後に、当農場の今後の経営計画や改善計画等で何か情報収集されている内容がありましたら、お知らせください。以上でございます。

○議長（村上 正広君）執行部の答弁を求めます。

増原町長。

○町長（増原 聡君）大西保議員の御質問にお答えいたします。

まず、外国人就労について、なぜモンゴルを選定したかでありますけども、まず外国人人材の話の前に、日南町が置かれている課題について改めて触れたいと思えますが、施政

方針でも申し上げましたとおり、このままの人口減少の推移を続けましますと、2040年には人口が2,089人という数字に直面するという厳しい現実があります。超長寿社会を目の当たりにしている日南町において、町内での介護・福祉・医療といったサービス供給が人材不足により低下し、健康で長生きしていただくことがますます難しくなっています。この状況は、介護・医療の担い手ばかりではなく、働き手不足が全ての産業について叫ばれているという現状を私たちは真摯に受けとめるとともに、この局面をあらゆる手段を持って打開していかなければならないと考えております。

その一つとして着目したのが、現在、都市部でも叫ばれておりますけれども、中山間地域のあるべき外国人就労について、パイロット的な調査研究であります。御質問にありまします外国人技能実習については、外国人就労に向けた一つの手段であり、モンゴル国に目を向けたのも一つの手段であります。そしてなぜモンゴルに着目したかというところでありますが、モンゴルは技能実習としての取り組みを初め、外国人労働者数においても他国に比べておくれしており、実績も余りないのが現状であります。

鳥取県は1997年の夢みなと博覧会の開催を機会として、モンゴル中央県と交流を行っておりまして、現在も大変友好的な関係を築いております。また、平成10年に発足された鳥取県モンゴル中央県親善協会は、県民レベルでのモンゴル中央県との友好交流の推進を目的として活動されておりまして、日野郡選出の鳥取県議会議員が副会長を務められておりますなど、日南町にとっても信頼できる相手であります。昨年には、そのモンゴル中央県の校長先生のほうも日南町に来ていただきまして、日南町の福祉会のほうの視察もしていただいております。

後に触れたいと思っておりますけれども、パートナーにはより信頼の置ける相手を選びたいという思いから、モンゴルを一つの目標として計画したところであります。また、御承知のとおり、先ほどあったベトナムであるとか、ミャンマーであるとか、タイでありますとか、そういう国のASEAN諸国におかれましては、今、経済発展、GDPが非常に高くなっております。したがって、今後はなかなか外国人就労というよりも国内就労のほうに向かわれるんじゃないかというふうに認識をしているところであります。

続きまして、今後の進め方や取り組むべき重要な課題については、まず今後の進め方につきましては、お互いの信頼を築くため、視察を予定しております。視察には鳥取県及び親善協会の協力を得ながら進めたいと思っておりますが、現地で交流を行い、できればこの機会に人材交流派遣に関しての包括協定を結ぶなど、友好的な関係をつくりたいと考えております。また、並行いたしまして、モンゴル日本語学校卒業生が日南町内で活躍できるように受け入れ体制を整えるとともに、町内事業所の受け入れ希望確認と、モンゴル日本語学校卒業生の意向確認を進めてまいりたいというふうに考えております。

この施策を行う上で重要な課題でありますけれども、お互いの信頼関係がまず第一であるというふうに思っております。当然遠い異国の地に高校を卒業したばかりの方々がもし仮に来ていただきますと、やはり親子関係を非常に重視されておりますモンゴルの親御さんにとりまして、非常に不安に思われるというふうに思っております。その辺をやはり鳥取県と日南町という公的なところが間に入ることによって、安心なものができるというふうに思っております。また、最近では外国人の不法就労であるとか、また厳しい体制での賃金不払い等の問題も発生しておりますので、その辺のところもしっかり町のほうなり県のほうと一緒に受け入れていきたいというふうに思っております。

そのためにも、鳥取県や鳥取県モンゴル中央県親善協会と連携して、出国前には日南町のよさを理解していただくとともに、日南町での就労を初めとする生活全般について、また来町後により安心していただけるよう、心のケアについてもしっかりと体制整備を図ってまいりたいと思っております。繰り返しになりますが、この日南町の取り組みが、鳥取県、ひいては日本の将来的な中山間地域のモデルとなるように取り組んでまいりたいというふうに考えておるところであります。

続きまして、セントラルファーム農場の排水についてでありますけれども、公害防止協約書の締結に向けた進捗でありますけれども、平成29年9月以来、地元と事業者の協議を4回にわたって行ってまいりました。うち2回は新たな協約書締結に向けた条件提示などの話し合いを行いました。協議の結果といたしましては、残念ながらこれまでと同様に双方の御意見が平行線のままで協約締結には相当の時間が必要と思われております。しかし、引き続き協議は続けていく方針であります。

ちなみに事業者は、これまでの協約書を遵守しておられまして、飼育頭数の上限や水質検査結果も安定した数値で推移しております。これらの実績を積み重ねて、お互いの信頼関係を再び築いていただきまして、協約書の締結につなげてまいりたいというふうに町と

しては考えております。

続きまして、鳥取大学農学部による高濃度マンガンに関する取り組み状況ですが、森林開発直下の谷水にマンガンが含まれていることは、鳥取大学からの水質等調査報告書で報告がありました。しかし、マンガンが流れ出している、溶出しているというそのもとの原因については確証が得られておりません。これまでの調査により、鳥取大学からのレポートでは、人為的な影響によるマンガン溶出が推察されるといったレベルでの見解が示されておりますので、開発地でのさらなる調査に向けた協議を、産業廃棄物の規制を所管する鳥取県を交えて進める計画であります。

そして今後の経営計画や改善計画等についてであります。昨年の地元関係者と事業者による意見交換の中では、事業者から老朽化した豚舎の改築と新たな堆肥舎を建築したいというお話を伺いました。諸規定に基づく届け出は行うということですので、時期については今春から着手したいということでした。町からは計画図面等が完成した場合には提出していただくようお願いをしておるところであります。施設環境がよくなることで排水対策もさらに改善されればと思うところではありますが、これが肥育頭数の増頭につながってもいけませんので、飼育頭数の報告については引き続きお願いをしていく考えております。

あわせて、経営改善計画につきましては、認定農業者としての更新が行われておりませんので確認することができません。報告義務はありませんけれども、この機に施設改修に伴う経営計画についても確認するように指示をいたしたところであります。

以上、大西保議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（村上 正広君）再質問がありますか。

8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）このたび、モンゴルの外国人技能実習につきまして、私大変ちょっと興味というんですか、いいなと思っております。実は昨年10月ごろから新聞では、外国人実習生のことも出ています。11月1日から施行令が新たになりまして、今度介護というのが明確に入ったということで注目しております。2月の終わりに新聞に出たとき、あつという形で、中身を読みますと、やはりモンゴルの先ほど言われたとおりであり、私にとってはいいなというのが一つあります。それから、いろんな県のほうも協力していただけるということ、大変、行政がやるということは珍しいので、それなりに信用が置けるということであるし、町長も言われましたように安心だということ、私も実はもうこの外国人実習制度が始まったのは平成5年からで、今25年続いております。私はこの間、10年間ぐらい外国人の実習の申請書であるとか、その逆、実習生を世話を何度もしております。そうした事務的な手続とか、実際に世話したこともしておりますし、同僚議員の中でも実際に中国の方を使っておられたこともあるので、大変注目しております。

ここで一つ伺いするのは、新聞でも出されましたけれども、町内の事業所といえ、やはり介護福祉ということになると思うんですが、病院とか福祉会、それからそれとは別に会社について何名ぐらいが不足だと思っておられるでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）そういう具体的な調査はこれから、例えばモンゴルの方を雇用されるという調査は、これから予算が通りましたら商工会を通して実施するように計画をしておるところでございます。現在の状況からいいますと、大体毎月のハローワーク等の形でいきますと、100人前後が日南町では不足しておるというふうに認識をしております。複数の場合、パートであったり、それから常勤であったりというふうな形があります。ハローワークで大体毎月80件ぐらいの件数が出ております。これを今、モンゴル語に翻訳を鳥取県を通じてお願いをしております。そういうふうなものも向こうのほうに提示して募集をしてみたいというふうに思っております。それ以外に、いわゆる介護の職員につきましては複数でありますし、医療につきましても複数でありますので、そういうふうな形でいくと大体100人前後かなというふうに思うところであります。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）100人ということを知って、会社によって規模であるとか、施設によっては10分の1であるとかね、それからきちっとすれば同等までいけるような人数も書いてあります。やはりニーズというんですか、町内企業のニーズ、福祉会であるとかそういったニーズを調査、今からされるということですので、その結果を待ちたいと思います。大きなスケジュールの中で、実習生としていつをめどに、一応新聞では18年度とか書いてありますが、具体的に何月ぐらいをめどにこちらへ入れると、受け入

れするののかというのは現時点では計画はあるでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）スケジュール感というふうな話になるかと思うんですけども、当然ビザの、就労ビザとか、そういうふうな申請になってきますので、これは行政ではなかなかできないことでもありますので、既存に受けられている企業であるとか、会社であるとか団体、組合というふうなものでも利用したり、もしくは場合によっては町内にもベトナムの方々を受け入れていう方、そこをお世話をしていただいている企業といいますか、団体もありますので、そういうふうなところとも連絡を取りながら今やっているところでありますけれども、それがうまくいくなれば、向こうの卒業生や卒業生のOBとかOGの方々の希望にもよるわけですが、もしうまくいけばこの9月が大体向こうの卒業ですので、一番早ければそういうふうなスケジュールになるかなと思っております。また、場合によりましては、OBの方とかOGの方になると、例えば年度中とかというふうな形で、私どもとすればできる限り早くやはりこういうものについては取り組んで、それをやはりどういう問題が生じるかというふうなことも含めて、将来的には特区というふうなことやはり申請をしていく必要があるんじゃないかなと思っております。

具体的に言いますと、林業でいうと、単なる就労ということであれば1年なんです。例えばそれが技能で、技能研修ということであれば3年というふうなことになるわけですが、でも、その辺のところはやはり受け入れる企業にとりまして、現在例えばオロチさん等ではベトナムの方を受け入れられておりますけれども、この製造業ですと1年になるわけですね。そうするとやはり1年で仕事を覚えてしまったらまた帰られるというふうな形になると、なかなか企業としてはコスト、それから熟練度等も考えていくと、なかなか厳しいものがあるというふうに思っております。それでもしないとやっぱり人手不足だというふうな現状があるわけですが、その辺のところを考えると、やはり3年とか5年とか、やはりある程度長期的な就労というふうなことを考えたほうが、企業にとっても、受け入れ企業にとりまして団体にとりましてもいいというふうに思いますし、また、働く方にとりましても、せっかくなれた職場でまた非常に高い費用を払ってまた帰国をして、またその手続をして、またこちらに来るといってもなかなか困難だというふうに思います。できればそういうふうな形で、将来的には特区というふうなこと、それがひいては中山間地のモデルとなって、中山間地の場合にはこうですよみたいなことに広がればいいなというふうに夢を描いているところであります。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）今、町長から福祉の関係と、それから林業であるという、両方の話をされたんですが、私は福祉というんですか、介護福祉、医療福祉の関係ですね、それをターゲットにして、先にそちらのほうをメインにされたほうがいいんじゃないかなと。現状では企業さんは実習生を受け入れておられますので、そこにまた別の国から来た場合に2国になりますので管理も大変だと思うんですが、できる限り、今、モンゴルということと言われましたし、モンゴルのやっぱりモデルケースにしたいということで、日本ではなかなかないので町長も言われたように、私も日本でモンゴルの技能実習生は何人いるかとちょっと調べてみたら、295人おりました。中国地方では2名だけ、広島です、2名。それから九州では3名だけ、大分県。もうそれ以外は、愛知県から全て上になっておりまして、ですからこの中国地方ではエアーポケットになっています。ただし、それは介護は入っていませんので、それ以外の職種のほうでやっておるので、この鳥取県でモンゴルで介護、福祉ということは大変いいなと思っております。

ちょっと心配なのは、日本の受け入れ側の管理団体なんですけど、私も管理団体らしきところもやってきましたし、これの申請はどれぐらいかかるというか、管理団体と認定されるのはどれぐらいかかりますか、申請出してから。ちょっとその時期的なことをお聞きしたいんですが。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）管理団体を新たにという前提での申請ということになりますと、申請からの手続期間も当然ですけども、それ以前に研修の実施計画でありますとか、そういった部分の準備がかなりの時間を要するというふうに思っています。先ほど町長が申しました、30年度にモンゴルに行って、実際そういう包括協定ができて、交流ができるということがスピード感を持って進めるようでしたら、一つには既存の管理団体さんというところも視野に入れて、そういった部分、それと町として新たにつくっていくというふうなことも、両方面で考えながら進めたいというふうに思っています。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

日南町第2回定例H30年3月13日

○議員（8番 大西 保君）わかりました。管理団体、あくまで案をいただいて商工と書いてあります。これは一つの案ですので、あくまで案ですから、今、現状の管理団体にまだ話はされていないと思うんですけども、モンゴルというのはその会社はされていないと思うんですよ。それはどうなんですか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）これにつきましては、実は某鳥取県内の西部の下流のほうの管理組合さんと話を既にしておりまして、私個人的にも面識のある方で、そういうことを話をしたら、ぜひ一緒になってやろうじゃないかということで、そちらのほうの定款の中に、日南町のそういうふうな受け入れについても協力するよというふうなことで、例えば一緒にモンゴルに行ってもいいよと、向こうのほうも新たな研修生の開拓ということも含めて、お互いウインウインの関係になるわけですけども、そういうふうなことも含めて行っていよという話がいっていますので、具体的な話は実は水面下ではある程度進めておるところでありますので、そういうふうな方向でできたらやっていきたいなと。特に日野川上流、下流というふうな連携も含めまして、さまざまないい面が生まれるんじゃないかなと思っております。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）わかりました。この西部管内で一つ、テレビを見たんですけども、米子のほうの福祉施設でインドネシアから来られて、県の機関へ入って、それから資格を取られて、もう10年近くなって、日本はいいということで御家族まで呼ばれて、4人ほどですね、つい最近テレビ見たんですけども、それはもう本当に一番最初の介護の人材でございました。そういった成功例もございます。

今、管理団体と言われましたけども、鳥取県の国際交流員ですか、モンゴルから鳥大におられて、今回はその方が、ですからその方が本当のパイプ役というんですか、一番大事な生活の仕方とか、本当に目に見えない、旅行に行こうだなというんじゃないしに、本当に生活、トイレから食器のどうのこうのから、全てやっぱり生活習慣というんですか、カルチャーを知っておかないと、日本の常識が向こうの常識でないということもあって、県は特にその辺は協力してくれると思うんです。だからこのいろいろ計画書の中を見ると、国際交流さん、それから当然今回協定書を締結する場合にも行かれると思うんですけども、本当にその方が、管理団体の方はモンゴル語がわからないと思うんで、そこが上手に県のほうと連携されると思うんですけども、そういった形でやっていただきたいと思えます。

あと、日本語学校のことも今回最初に行かれるということですが、日本語学校のレベルというんですか、こちらへ来られる試験というか、日本語検定というのがあるんですけども、通常N検、N検というんですけども、何級レベルを検討されておられるんでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）日本に受け入れますモンゴルの方の日本語学校の卒業生等を想定しているわけですけども、卒業時点でN4レベルの方を来ていただけるのではないかなというふうには今は想定をしております。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）N4ということですので、これN4である場合は研修は1年で終わりです。2年目へ行こうと思えばN3相当のレベルということになりますので、もしN4で来た場合に、もしN3に上がるためには、どのような日本語研修をさせる予定、まだ計画はないと思いますけども、まずN3であれば、そのまま5年間、日本語は十分いけると。十分じゃないですよ、一応一般的な話までいけると。本当は一番いいのはN1が一番いいんですけども、そこまでは求められませんけども、そういうことなんで、もし今回、モンゴルへ渡航されたら、そのレベルですね、あくまで日本語検定とかいうのはされていると思うので、そうでないと特に介護の場合は言葉、コミュニケーションが物すごく大事で、失礼な言い方ですが、製造業やったらあれせえ、これせえでいいんですけども、介護の場合は特に心とつき合うというんですか、一番コミュニケーションが大事なもので、特にモンゴルの場合一番いいのは、日本語学校があるということがもう最高で、なかなかベトナムでも日本語を教えるほうで相当金かかって、そちらの費用が高過ぎてというのが結構あるみたいなんで、これのポイントがよかったかなと、日本語学校があるということもよかったかなと思っております。

もう1点、予算審査の中で、これ小さなことを言っただけですけども、細かいことを言いますが、予算審査の中で渡航費がありまして、1泊2日ということがありました。

で、ウランバートルからゾーンモンド市はどれくらいの距離があって、どれくらいの時間がかかるんでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）中央県の中の中心部にウランバートル市が独立して首都があるというふうに聞いております。その周辺部の中央県の中の県都がゾーンモンドということですので、距離的には空港から1時間程度というふうなことで伺っておるところでございます。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）そこでちょっと調べてみたんですよ。そしたら1泊2日は物理的には行けるんですが、仕事する時間がないんですね。参考でいきますと、米子空港8時45分、ウランバートル7時10分、夜の19時10分です。そこから1時間飛ばして行ったら8時ですね。明るる日帰ってこようと思えば、もう7時55分にはウランバートルを出ないかんわけです。そして米子空港に8時と。特に1泊2日でこれ提携できないし、もう一つフライトを調べてみたんですよ。そしたら毎日飛んでおりません。飛んでおるのはたしかあるんです、1日だけ、日、月だけなんですね。そういうことで何が言いたいかいうと、やはり細かいんですが、チェックされて、これを予算審査で出された資料なんですね、質問した後のこういう出していただいた資料ですけども、こういうふうなものをもうチェックせず出されているのかどうか、今後の私ちょっと進め方の中でこういったことは頻繁に起きるとだめなので、それはどうなんでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）今の便数あたりのことについてまで、ちょっと私のほうは把握できておりませんけども、担当のほうでチェックをして予算化をしておるつもりではございます。もしそういった状況があるようでしたら、チェックの上でまた検討させていただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）済みません、嫌らしい質問で申しわけなかったんですが。というのは、これから企画課中心に、福祉であるとか、いろんな関係団体との調整やらなにかんと思うんですけれども、やはりコミュニケーションであるとか、その進捗状況が一番大事で、やはり我々民間でやったのはよくプロジェクトチーム、PTを組んだりするんですね。組むときに必ず定期開催すると。もう1週間に1回だったら必ず定期開催、朝一番にするか昼一番にするか必ずやって進捗状況を確認しながら、計画おくれもあるし、いろんな条件があるので、その辺の計画に対しての進捗とか、そういったことは今現時点では考えておられますでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）当面、この件につきましては、いわゆる交流部分での予算化でございます。その部分については企画課内でしっかり連携をとってやっていきたいというふうに思いますし、今後いわゆる技能実習というふうな具体的なお話になります段階になりますと、それぞれ関係課、関係の事業所さんとも十分な意思疎通や連携が必要になりますので、そちらにつきましては、おいおいと体制を組んでいただくようお願いをしておるところでございます。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）これから計画中なんで、今、ああじゃ、こうじゃということと言うのがあれなんですけども、介護福祉をメインにやはり期待しておるところがあるので、介護の場合を調べますと、やはり排せつまで作業が明確に入っております。ただし、訪問サービスはだめということもうたってあるので、そういったところの中でよく言うのは、海外から来る場合に、ちょっとこの仕事だめだからかえるわと簡単にかえれないので、一応入国管理した場合に、勝手な個人的な事情でかえれないというのがあります。例えば3年間研修であれば途中かえれないと。

極端なことを言いますよ、親が死んでもよほどいうか私の経験上、その申請が大変なんですよ、一時帰国というのは、これは大変、本当に帰ってくるかわかりませんから、一旦帰ったら。ですからそういったこともあるので、その決まりとかいうのを相手国、相手に対して明確にいいですよと、ミスマッチにならないように、一番私の今までの経験でいくと、そんなはずじゃなかったということが結構起きます。例えば、歯医者の問題もあります。自分の国では歯医者はあんまりよくないので、日本の歯医者が一番いいので日本で治そうとするんですが、外国人、この海外研修生には歯医者は行かせません。その行かさな

日南町第2回定例H30年3月13日

たい。今後の参考にさせていただいて、私が言いたいのは、いろんな課題があると思うんですよ。ですけど、重要課題はいっぱいあると思うんですが、それを専門のところに聞きに行ったり、専門の方と連携とっていただくとかね、県も結構入っていると思うんで、そういったことをお願いしたい。必ず定期開催いうのをね、されて、我々も各委員会がありますので、そちらへもしよろしかったら話し聞いたり、経験のことも話したり、あるいはチーム日南というぐらいな気持ちでこの事業を成功していただきたいので、よろしくお願いします。

これについて、私のこれで質問終わりますが、この件は、町長何かこの件について補足がありましたら。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）ありがとうございます。また、いろいろ受け入れについて困ったことがあったら、大西議員の協力もぜひ仰ぎたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

それと、今言われましたように、やっぱり本当受け入れの中で、介護という部門も、実は介護現場についても、今、正直言ってそんなに積極的ではありません。やはり言葉のことうのこがあるって、先ほどN4という話をしたわけですけども、実際にはN3とられている方もおられるというふうに聞いております。最低卒業のレベルがN4ということでもありますので、優秀な方であればN3を取得されて卒業される方もおられるというふうに思っております。そういうふうにも聞いておりますので、できればそういう方に来ていただくと後々が非常にいいなというふうには思うわけでありまして、それと今のカウンセリングとかという話もやっぱり必要でありますので、これも県とか、それから鳥取大学等も連携をして、協力していただくようになっております。

また、日南町の国際交流協会というのが町の中であるわけですし、ちょっと今、活動を休止中なんですけども、こちらについてもそういう話をしましたら、ぜひともそういうふうなことについても協力をして、きょうちょうどふれあい人権講座では韓国料理の講座があるようでもありますけども、そういうふうなことも含めて交流していただけるような計画もあるところであります。

そういうふうな形で、実際介護の現場でやっぱり一番問題なのは言葉と感情なんですけども、実は高齢者の方々にいろいろ御意見を聞くと、逆にいいよというふうに言われるんですね。片言の日本語でも一生懸命コミュニケーションをとろうとしている姿を見ると、非常にかわいらしいというか、自分たちの心も和むと。そういうふうな方々に介護といいましても、先ほど言われますようにいわゆる点数に入る訪問介護とかはできないわけですけども、いわゆる例えばおしめの取りかえとか、そういうふうなところとか、体を拭いてあげたり、そういうふうなところでやっていただくと片言の日本語でも非常にうれしいというふうに言われておりますので、そういうふうな部門をやっぱり、実際今回の訪問にも日南福祉会からも参加していただくというふうに聞いておりますので、実際現地に行かれて、やはりそういう姿を見ていただいて、それでやっぱり安心をして積極的に受け入れていただければなというふうに思っております。

そういうことも通じながら、医療とかの分野や、それから実際には例えば本当に日本に永住しようとする方であれば、例えばさっき言われたようなインドネシアの方の、これあたりが厚生労働省が看護師で募集したときの合格率が2%というふうなことで、実際にはほとんど定住につながってないわけでありまして、仮にそういうふうな方がおられて取得されれば非常にうれしいことだというふうに思いますので、ぜひともそういうふうな方向で進めてまいりたいというふうに思います。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）ありがとうございます。何とかこのプロジェクトが成功するように、また協力したいと思います。

次に、セントラルの農場の件なんですけど、25年の春からもう足かけ6年になります。先輩議員も議会で質問され、私も1年目の、議員になって1年目にもしたわけですけども、その中で河川を、ここにファイル持ってきたんですけど、河川の水質悪化に関する意見交換会、これが去年の8月までで13回開いております。毎年県も来ていただいて、夜の7時ぐらいから9時過ぎまで何回も話し合いしておるんですけども、結論から言うと、この協定書がまだ締結されてない、知らない、いろんな経過はあるんですけども、残念なところに、その下流域にある農家の方が、本当に安心して稲作、水稻ができないというところを言われています。逆に言えば、もうこれでいいよと、安全だよと安心して栽培してくださいという町からのお墨つきが欲しいというようなことを言われておられましたけど

も、ここでちょっと伺いするのは、4回開かれたということですが、その方は2回しか出てないよということでしたけども、その中で一番大きいのは排出基準と頭数なんですね。

頭数だけに先絞りますと、8,500頭ですけども、これは毎月頭数については資料をいただいております。それで私自身が2年間、ずっと頭数表をつくって、その会議にも出しました。この数字見たときに物すごく矛盾を感じたんです。素人でもわかります。8,500頭に対して、マックスの8,500と4,666、要するに差は34頭しかないんですが、その下に飼育の関係で大きくあるんですけども、この差が1,400頭も差があるのに、一番上の総数は8,500なんです。これの信憑性がちょっと私は大変疑っております。で、本当にこの頭数が調査できないのか、どうなんでしょうか。要するに協定書のポイントは、頭数と排水基準なんですね、放流される。その頭数について、要するに今回問題が起きたのは、頭数が非常に多かったというのと、設備管理が問題だったと思うんですよ。その2つなんですけど、まず頭数について、町としては立ち入りする予定はございませんか。

○議長（村上 正広君）久城農林課長。

○農林課長（久城 隆敏君）この案件が発生いたしましてから、何回か中のほうには県の職員にも同行していただきまして入らせていただいております。その中でこういったような頭数調査あたりのことも相談をすることもございますけれども、現実問題といたしましては、いわゆる病気等の発生のことを心配して、何かそこまでいわゆる親豚のところまではいいけれども、そのいわゆる子豚あたりの検査も、そこについては非常に亡くなるというんですか、豚もあるというようなことでして、非常に厳しいということことでして、それ以上についていわゆるまだ細かいところまで詰めておれないのが現状であります。

ただ、あとは家畜保健所あたりへのいわゆる報告義務はある、年に1回であります。けれども、そのあたりにつきましては県のほうにも情報提供いただきながらというふうには思っておりますけども、いわゆる県のほうから以前いただいたのは、県のほうもそういったような形について今、守秘義務もあるという形でして、現在、統計調査あたりにつきましても、いわゆる日南町につきましては1社しかありませんので、公開になりますと、いわゆるその会社のイコールデータになってしまいます。そういったような形でいわゆるクローズされておる現状もございます。そういったような中で、なかなか細かいところまで確認することができないというのが現状であります。したがって、いわゆる今、御報告いただいております数字で確認するしかないというのが実情であります。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）この意見交換会始まったときから図面をいただきました。この図面は各豚舎の図面なんですけど、この図面見ますと長さが10棟ぐらいあるんですけども、今、航空写真見ますと、一本ずぼっと通っておるんですよ。想定するのは、増設じゃなくて全部つないでしまっただけで広くしている可能性が大なんです、これ最近のグーグルの写真なんです。何年か前かもわかりませんけども、でも林地開発の森林開発がこれぐらい出てますので、ここ二、三年前かなと思うんですけども、これでも相当な建屋の広さになっておるんですけども、これでの固定資産、町としては固定資産税いただいておりますけども、この固定資産を評価するのは平米なんですか、何でするんですか、こういった豚舎の場合は。

○議長（村上 正広君）浅田住民課長。

○住民課長（浅田 雅史君）この調査につきましては、平米で調査させていただいております。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）ここの会社は3代ぐらいかわっておるんですけども、つい最近の変化点の固定資産評価の変わった年度はいつごろでしょうか。

○議長（村上 正広君）浅田住民課長。

○住民課長（浅田 雅史君）手元にある資料につきましては、評価の年数でなくて建物の年数ですけども、25年に建築されたものが最新のものが評価が一番新しい数字となっております。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）その評価するときは、書類だけで審査するのか、実際に住民課の方が、担当の方がメジャー持ってはかっていったこの平米だなとかいうようにするのか、どちらなんですか、立ち会うのか書類審査のみののか。

○議長（村上 正広君）浅田住民課長。

○住民課長（浅田 雅史君）評価の方法としましては、当然図面の提出もお願いしておりますけれども、現地に行って実際にその建物の現状を確認させてもらって評価とさせていただきます。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）最後の質問のところに言っておったんですけども、今後の計画ということで聞きますと、春には増築したいということですが、その増築の計画案は御存じなんでしょうか。

○議長（村上 正広君）浅田住民課長。

○住民課長（浅田 雅史君）上がって右手の親豚とか、子豚のところ、その部分の増築計画は聞いております。で、前回の意見交換会の際にも、そういった計画があるので事前に図面を提出していただきまして、それで、この会等でも協議させていただきたいという旨を事業所のほうにも伝えております。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）今、改築しようとしてる建物の平米数はわかりますか。

○議長（村上 正広君）浅田住民課長。

○住民課長（浅田 雅史君）まだ図面等も見せていただいておらん段階で、平米数までは詳細なものは把握しておりません。

○議長（村上 正広君）前の増築しようとしているもとの面積、新たな分でなしに。わかりますか。

浅田住民課長。

○住民課長（浅田 雅史君）その豚舎がちょっとどれに該当するのかというのは、ちょっと事業所のほうに確認しまして、かなりの豚舎の建屋がありますので、確認させていただいてみると、どれをどのようにするかということまでは確認できておりません。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）私、これ半分、半分あると思うんですよ。以前から増築いふんか、大きく広くしたところ、これは航空写真とこの図面と照らし合わせたら2つの建物がずぼっと長くつながってます。これが1つです。これが半分ぐらいあります。あと半分分にこれから増築しようとしてるとこなんですよ。増築なんです。小さな豚舎を今度大きくするわけです。その平米を合計しますと、7,430平米なんです。だから私、今言ったんで、今回増築しようとしてる該当の今現在の平米は何ほで、例えば3,000か5,000か、それに対して7,400と1.5倍になったりするわけですね。それで頭数が変わらないということはないと思うんですが、そこをちょっと聞いておるわけです。だから、もしあれだったら後からその該当する平米、固定資産台帳でわかるんならば、それを教えていただきたい。どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）浅田住民課長。

○住民課長（浅田 雅史君）事業者の方とは、また協議する機会を持つようにしておりますので、その際にまた確認はさせていただこうと思います。今聞いとる中では、増築というよりは、2棟になったものを1つのものにして外に出さないようにして衛生管理をきちんとしていきたいというような話は聞いとりますが、どの豚舎とどの豚舎を一緒にするかという部分につきましては、また確認させてもらって御報告したいと思います。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）住民課長、これ私、会議でもらった資料なんですよ。この図面を一応一致すると、斜めのり面から下は一致するんですよ。今言うように、これをつなぐんじやなしに、これをきれいにしてどかんと大きいやつを、1つの建物100メートルなんです。100メートル、10メートルが何本か、すごい広いですよ、ずぼっといふんですよ。今まで小さいやつを全部するから相当な面積になる、あくまで平面的ですよ、だからそれを聞いてるんです。

それで、問題は、ここの頭数が8,500がどうなるかなんですよ。実は、町長も苦労されたと思うんですけど、26年に町長がこの農場に対して改善計画をお願いしますと出されました。そのときはちょっと整備費用がかかるからということで、頭数だけ減らしますということを言われたんですが、その頭数を減らしたんがわからないんですよ、何頭が何頭になったか。でも今は8,500だと言われているんですが、この本当に増頭いうんか、もうこれ増頭ですよ、面積が広がって。これが1万になるのかどうなのかと。

8,500でこんだけ広くしてくれたらいいんですけど、そこなんです。

それで、もっと大事なものは、ここの浄化施設です。浄化いうか、曝気槽とか、この辺はどうなっとなですか。全くそれが図面にはあらわれてないですよ。環境というのは、やは

り敷地外に出すまでにプールするとか、きれいな水を流す、そこではかって出すとか、それが完全にこれにはあられてません。この浄化、合併浄化槽とかいろいろあると思うんですけど、その放流するための施設については情報は入っておりますでしょうか、改善計画は。

○議長（村上 正広君）久城農林課長。

○農林課長（久城 隆敏君）今回町長の答弁のほうには間に合いませんでしたけれども、最近の新しい動き、1つ追加がございましたので、私のほうから報告させていただきます。

今週金曜日でありますけれども、DWファイバー、いわゆるこれ今まで土壌改良材としてだけ使っておりました。これが沈殿槽に投入することで、いわゆる凝集、それから水分調整効果が期待できるということが最近の研究でわかりました。大建工業さんとセントラルファームの方が面談されて、非常に高額にはなりますので、これを使った形でのいわゆるろ過ということを検討されるということでもあります。実際にろ過の際に陽イオンを吸着させることで処理水内のいわゆる窒素の低減も実際に図れる、それについても実験結果が出ておりますので、1つには、そういった形での水質のいわゆる改善についてもDWファイバーの導入ということを検討しておられるということ、導入ではありません、まだ検討段階でありますけれども、そういったような今後協議をさせていただくということと考えております。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）一番問題なのは、やはり増頭ということは別に問題ではないわけですね、本来的にはですね。産業として、やっぱり畜産業としてしっかりやっていただければいいわけですので、それは奨励すべきことだと思うんですけど、問題は、処理能力との相違があって、それが先般のように、例えば穴掘って埋めてしまったりというふうなことが見受けられて、非常に問題だったり、それから野積みにしてたものが雨水によって川に流入するというふうなことがないようということ、そのときにも貯水槽の改善とかいろいろなことをお願いしたわけですが、なかなかそれが着手されてない中でそういう中で増頭されると、当然フローするというふうなことが出てくるわけでありまして、ですから根本的には、そちらのほうにお金を、お金といいますか、経費もかけていただいて、それでしっかり経営をしていただきたいということが私どもの主眼だというふうに思っております。

その中で、今聞いとりますのが、1つには、今、すのこみたいなものの上で豚を飼っているわけで、そうすると、そこは斜面に溝になっとりまして、ふん尿が一緒になって流れ出して1カ所にたまるということになっとりまして。今は、どうも新しく考えられたのが、すのこを少し高くして、その下にいわゆる、どういいますか、ぐるぐるぐるぐる回る機械を置いて、ふんと尿を分離して集めるというふうなことで、少し水質改善なりということができないかというふうなことを整備をされるというふうには聞いとりますけれども、それがどの程度あるのかというふうな話も含めて、しっかりと排水対策をやっていただいた上で増頭というのはいいいわけですが、それがない上での増頭計画というのはいやはり認められないと思っておりますので、業者の方にもそういうふうな注意喚起をしていきたいと思っております。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）町長もそこまで御存じだし、そういった改善をしなければならぬという発言があったんで、私もいいかなと思うんですけども、それを実際に農業をされる方にはちゃんと説明してあげて、やっぱり安心して稲作をしたいということで、もう夜になったらどうかわからん、雨降ったらやばいとかそういう話を聞きますので、せっかく大がかりな投資をされると思うんですね、会社として、会社経営としてやっぱり発展していかなくちゃならないと。そのために、やはり周辺の環境をまずやってふやすのはいいんですけども、協定書の中では処理能力が8,500であれば、その1.2倍の処理能力、その1.2というのは係数でどうなるかわかりませんが、そういったことを最低限守られるような形、排水基準等々ありますけど、ちゃんと管理しとれば20ミリ以下なんですよ、実際には。それを700とかいうもう極端なこと、家畜排せつ物法とかどうのこうの言われて、ちょっと話は違うんですけども、やはり常時管理さえしとれば20以下におさまるとるわけですね。30から100になるのは何かの過去に異常ばっかりだったんですよ、例えばバルブを閉め忘れたとかそういうことばっかりだった。そのきちっと管理すれば、この20、30というのは守れとるわけです。

今回の林地開発の以前は問題なかった、問題はあったかもわからないけども、そう大き

日南町第2回定例H30年3月13日

く問題なかったのが今回こうなったので、ちょうどこの2年、3年ぐらいはある程度落ちついてると思うので、この際、町長にお願いしたいのは、もうできるだけ早くトップ会談していただいて、やっぱりこの協定書をお互いが喜んで共存共栄と、それで、従業員の方も雇用、日南町の方も働いておられますので、そのためにできる限り、トップ会談というんですか、そういったことを進めていただきたいんですが、町長、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）今言われるとおり、今、水質は非常に安定をしております、下流の農家の方も、いつときは窒素分に強い品種に変えられましたけども、またコシヒカリにたしか変えられたというふうに聞いたりしますので、ここ近年は水質が非常によくなってるというふうに思っております。先ほど申しますように、私どもとすれば、会社としての発展はいいことだと思うんですけど、やはり今言いますように、排水対策はしっかりしてやられないといけないというふうに思っております。

また、今の管理される工場長ともお話をして、トップの方が来られれば、ぜひまた話をしてそのような趣旨は伝えて、やはりお互いにいい関係で就業していただいたり、操業していただいたりするのが理想でありますので、そういうふうなこともお話をしてみたいというふうに思っておりますので、ちょっと工場のほうにもといいますか、日南町の現場のほうにもその旨を伝えておきたいというふうに思います。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）ぜひお願いしたいと思います。意見交換会も去年の8月からされてません。情報がわからない状況なので、住民課も大変ですけど、農林課も大変ですけども、一度、田植え始まる前ってもうすぐかもわかりませんが、一度会議いただいて、今春からその建物の改築が始まるということで、そういった話を会合でしていただきたいわけです。その辺の要望をしときたいんですが、住民課長、担当課長としてどうでしょうか。

○議長（村上 正広君）浅田住民課長。

○住民課長（浅田 雅史君）稲作が始まる5月までには、また再度この会を開かせていただきますして、情報提供等をまたさせていただきたいと思います。

○議長（村上 正広君）8番、大西保議員。

○議員（8番 大西 保君）私も議会で1年目でこの問題を言い、もう4年目になるんですけど、この1期4年の間にこの問題を解決していただきたいというのが私の切なる思いであり、町長も3期目なんで、この期、1年目に何とか解決を図っていただきたいと要望して私の質問を終わりたいと思います。最後に一言、町長、何かありましたらお願いいたします。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）本当に、繰り返しますが、本当に日南町で牛も豚も鳥も飼っていただいて、これが本当に日南町のブランドになったり、やはりお肉というのは、例えば食のバザールをやりましても非常に人気の商品なわけであります。最初のころにはいい関係でしたので、食のバザールにも豚が出ておりました非常に喜んでいたんですけども、ちょっと関係が悪くなってからなかなか難しい部分もありますけども、ここはお互いにお互いの中の信頼関係なり、当然下流の農家の方の信頼関係が一番大事なわけですけども、そういうふうなものがやっぱり大事だというふうに思っておりますので、それが再構築できるように早急に検討してみたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）よろしいですか。

関連質問がありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（村上 正広君）以上で大西保議員の一般質問を終わります。

○議長（村上 正広君）ここで暫時休憩をいたしたいと思います。再開は13時といたします。

午前11時51分休憩

午後0時59分再開

○議長（村上 正広君）休憩前に引き続き会議を再開いたします。

先ほど大西議員の一般質問の途中に、近藤議員のほうから携帯電話が鳴ったようでございます。近藤議員に釈明を求めたいと思います。本会議中においては携帯電話を持ち込まないというルールがつくってあったというぐあいに思っておりますので、近藤議員のほう

から釈明を求めたいと思います。

5番、近藤仁志議員。

○議員（5番 近藤 仁志君）大変このたびは申しわけありませんでした。皆さん方との決め事を不注意とはいえず守ることができませんでした。以後気をつけますので、このたびは大変申しわけありませんでした。

○議長（村上 正広君）今後注意をしていただきたいと思います。

引き続き一般質問を行います。

タブレット3ページ、9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）今から一般質問をさせていただきます。

日南町の人口推計や人口動態から、将来大変厳しい現実が予測できます。以前は日本の30年先を日南町がいついていと言われていましたが、今や高齢化は全国平均の100年先を進んでいるようです。平成30年度の施政方針にもありますが、今すぐにでも人口対策でできることを全て始める実行力と行動が必要と私も感じます。

それでは、1番目のリハビリテーション科について質問いたします。

日南町の現状として、人口の半数以上が65歳を迎え、年代別では80歳代が最多数となっております。今後、10年先、20年先と大変厳しい状況が予測されます。そのような状況の中、高齢者の自立支援や重度化予防に期待が持てるリハビリテーション科が1月から新設されましたが、高齢化に向けたさらなる対応を計画されているか、伺います。

次ですけれども、リハビリテーション科は整形外科の患者数に大きく影響を受けると思いますが、整形外科の受診日は週1回の水曜日のみです。患者さんが診察を受けやすいように受診日をふやすことはできないか、伺います。また、30年度の医師、看護師の求人募集状況をお伺いします。

続きまして、結婚対策についてです。

かつて結婚相手との出会いのきっかけとして、職場での出会いや青年団などの地域社会での出会いなど自然の出会いが主流でしたが、地域社会や社会情勢の変化により出会いが減少している昨今、行政としても婚活応援をすることが必要な時代であると感じます。現在、町内に20代、30代、40代の独身男女はどのくらいおられるか、伺います。

婚姻奨励事業として、平成30年度は教育委員会が所管となって実施されますが、イベント等、募集をかけても町内の参加者が集まりにくいと予測されます。どのような手法をとられるのか、お伺いいたします。

最初の質問をこれで終わります。

○議長（村上 正広君）執行部の答弁を求めます。

増原町長。

○町長（増原 聡君）足羽覚議員の御質問にお答えいたします。

私からは、結婚対策について、独身男女の人数ということなんですけれども、これはちょっと国勢調査の結果でありますので、場合によっては独身に限らないかもしれませんが、一応男性で20歳代が123名、それから30歳代が106名、40歳代が99名おられます。一方、女性では、20代女性が87名、30代女性が39名、40代が40名おられます。

なお、平成9年から15年度に実施した青年結婚促進事業の夢ランドにちなん、これでは結婚実績が7組あつとりますし、平成23年から26年に実施したにちなん恋日和では結婚実績は2名ということで、ある程度実績を残しているところであります。

しかし、平成27年、28年においては、男性の消極的な傾向も見られ、計画募集しても参加者が一定数集まらず、事業実施に至つとりません。地元での開催や集団での出会いの機会に対する抵抗感も強まる中、出会いを支援をする実行委員会も活動を休止されたりして、取り組みは難しくなつとります。ただ、人口減もさらに加速する中、町としても早急に有効な施策を検討し、取り組む必要があると考えているところであります。

以上、足羽議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。リハビリテーション科につきましては病院の事業管理者から、結婚対策の具体的実施については教育長からそれぞれ答弁させますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）足羽覚議員の御質問にお答えします。

まず、リハビリテーション科について、高齢化に向けたさらなる対応を計画しているかという点についてです。

リハビリテーション科の体制が理学療法士6名、作業療法士1名となったため、このほど診療科として標榜し、病院機能の一部として明確にしました。現在、職員2名が産休あ

るいは育休に入っていることもあり、当面従来の業務と大きく変化するところではございません。今後においては、介護予防・日常生活支援総合事業の一つである通所型サービスCの拡充、これは平成27年度から始まった地域支援事業の一メニューでございますが、運動機能の向上とか栄養改善あるいは薬がきっちり飲めるようにということで、病院の専門職スタッフが連携して病院の中でいろいろな自立支援、介護予防、重度化予防に向けた取り組みをする取り組みでございます。サービスCの拡充、それから訪問リハビリでの相談業務の充実、介護施設での自立支援に係る個別プログラム計画への参画などを計画しています。この個別プログラムというのは、福祉課さんのほうでデイサービスとか訪問介護等をする場合に理学療法士等と一緒に伺って、運動機能の向上等についてアドバイスさせていただいたり、一緒に検討していくというような取り組みでございます。

そして②番として、かかわりの深い整形外科の受診日をふやすことはできないかとの提案でございます。

現在、週1日の受診日である整形外科の需要があることは重々承知しているところであります。鳥大整形外科の医局の人員体制が十分になった場合、追加派遣は可能ですが、現在、医局のほうでも大変厳しい状況があり、好転に至っておりません。再三要請はお願いしておるところですが、30年度においても現状の状況になる予定です。人材紹介会社等も活用しながら、今後も独自採用に向けた取り組みを進めていきたいというふうに思っております。

また、30年度の医師、看護師の求人募集状況ですが、新年度の採用は、常勤医師、看護師ともありません。31年度の採用に向け、先月の22日には鳥取看護大学、今月10日と18日には鳥取市、米子市での看護職の就職ガイダンスに参加しており、今後も確保に向けた努力を続けてまいりたいというふうに思います。

以上、足羽覚議員の御質問にお答えさせていただきました。

○議長（村上 正広君）丸山教育長。

○教育長（丸山 悟君）足羽覚議員の質問にお答えします。

結婚対策についての町内からの参加の手法についてであります。町報や防災無線、ちゃんねる日南での広報は行いますけども、対象と考えられております年代の方々には情報が届かない可能性が高いと考えております。また、仮に届いたとしても、それだけではなかなか参加していただけないだろうと予想されております。したがって、家族や友人等から直接参加を働きかけたり、勧めたりできるように工夫をしていきたいと思っております。

具体的には、私たちは、日南町民大学や人生学園、日南町体育協会の各種会合等やスポーツ推進員さんの会議など、さまざまな会議や研修会の開催時に広報、宣伝を行っていきたいと思います。また、町民の皆さんには、お子さんや孫さん、近所の御家族等への働きかけをお願いしたいというふうに考えております。これは教育委員会が主催する事業だけではなくて、他の課が開催する会においても研修会に参加していただくことをお願いをしたり、フェイスブック等SNSの利用も行いながら広報に努めていきたいと考えております。

以上、足羽覚議員の質問に対する答弁とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○議長（村上 正広君）再質問がありますか。

9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）まず、昨年12月でしたけども、定例会のときに診療報酬の改定があると説明がありましたけども、これはいつごろあるんでしょうか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）施行は新年度4月1日でございますが、新たな診療報酬の中身というのは先月2月7日に出ております。今、病院の中で詳細を検討中でございます。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）そうしましたら、その報酬によって、回答にありましたけども、通所型のサービスCとか訪問リハとか、その辺にやっぱり影響してくるんでしょうか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）先ほど申しました通所Cというのは、介護保険制度の外の事業でございます。地域支援事業ということで福祉保健課中心のほうで所管しながら、補助事業だと思っておりますが、実施しているところです。よろしいでしょうか。

あと、いろんな多項目にわたっておりますので、抜本的な動きはありませんけども、力

点の置きどころとか、いろんな調整が必要になってまいります。今、詳細については内部協議を続けておるところでございます。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）3月の9日でしたけども、日南福祉会のほうで実践報告会がありました。議員各位行かれたわけですけども、その中で本当に皆さん頑張っておられるなというのを実感したわけです。それと、第7期の介護保険事業計画ですね、この辺も何となく少し見えたのかなというように感じたわけですけども、この通所型サービスCですね、この利用者が、ちょっと資料をいただいたんですけども、平成28年度というのはかなり人数がふえておりまして、271人、平成27年度は60人ということなんですけども、これの主なふえた要因というのはわかりますでしょうか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）平成28年度、特に多かったというか、そのときに集中して取り組んだわけですが、このときはリハビリ科の体制が今よりも充実しておった部分がございます。大宮地区を中心にリハビリの職員が送迎サービスをしながら日南病院でこの事業を展開したということで、ふえております。現在は今そういう体制にありませんで、できておりません。送迎が必須ではないんですけども、送迎がない場合には若干収入が下がるというような制度だったというふうに思っております。今後も体制を見ながら、弾力的に向かえるいい制度でございますので、できるだけ積極的に向かっていきたいというふうには思っております。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）それによってリハビリテーションのその利用が結果としてふえたんでしょうか。日南病院でもそういったリハビリをこのCでやれとは思ってんですけども、その辺はどうでしょうか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）リハビリといいましてもいろんな制度上の枠組みがありまして、医療保険におけるリハビリというのは、疾病の状況によって期間が90日以内とか3カ月以内とか6カ月以内とか限定されております。それ以降にする場合は無償でせざるを得ないというような状況になります。あと一方、介護保険におけるリハビリというのは訪問リハビリというのがありますが、これは現在、日南病院ではやれておりません。これも人員体制の関係です。それを補完する趣旨も一面あったかもしれませんが、介護保険の外にある、より比較的元気な方を対象とした通所型C、地域支援事業に係る通所Cというのを27年度から実施しております。現在も数は少ないですが、本年度も来ていただいて日南病院の中で通所Cをやっております。現在、聞いたところでは5人ぐらい対象者がいらっしゃるというふうに聞いております。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）先ほどの答弁で訪問リハビリのほうは今現状はされていないということでもありますけども、今後やっぱりふえてくるというか、受けたいという方が多分多数おられるんじゃないかなと思いますけども、そういった組織体制といいますか、組んだら今後できるものなののでしょうか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）今、方向性をきちんとは決めておりませんが、専門職を確保すればできます。いろんなことの検討事項が必要ですので、医療保険でのリハビリも可能ですので、いろんなサービスを組み合わせる中で、その訪問リハをどう位置づけるかというのは今後協議、検討していきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）ぜひとも検討をよろしくお願いしたいと思います。

続きまして、先ほど理学療法士6名で作業療法士1名と職員さんがおられるようですけども、言語聴覚士はおられないですね。今後そういった言語聴覚士も採用するような予定といいますか、思いといいますか、そういったものはないのでしょうか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）言語聴覚士についても病院の中ではいろいろ協議はありますが、職員配置体制、疾病の状況の等々、現場のほうの声を聞きますと、基本的には確保したいということではあります。優先順位もありますし、当面第1順位ではないのかなという感じがしております。具体的には、リハビリする上での男女の割合とかいろんな現場の要請がございますので、トータル的な判断の中で向かっていきたいというふうに思っております。

日南町第2回定例H30年3月13日

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）例えば、今現在ですけれども、日野町の病院とかは3人とかたしかおられると思うんですけれども、そういった他の病院との連携とか、そのリハビリテーション自体、何かそういうようなことは考えておられますでしょうか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）言語聴覚士の担う機能について病院連携という話は、ちょっと病院の中では私の知る限りでは話題になったことはありませんが、ただ、耳鼻咽喉科の立派な先生がおいでいただいておりますので、できる範囲の支援はそちらのほうでもいただいているんじゃないかなというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）それと、昨年とかでよその病院とかでもリハビリテーション科が新設されたりしておりますけれども、その中で、例えば回復期のリハビリテーションの病床とか、そういうのをつくっておられる病院もあります。とにかく集中をしてリハビリを受けて在宅に復帰できると、そういうようなシステムをとっておられるようですけれども、短期間にリハビリをするということなんですけれども、そのようなことは全く考えておられないでしょうかね。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）回復期リハ病床のお話が出ましたが、病院の病床には、一般病床、精神病床、回復期リハ病床、それから療養病床という分類になると思っております。日南病院は一般病床と療養病床があるわけですが、現在、地域の要望に応えるために一般病床と療養病床をメインに対応しておるところでございます。回復期リハ病床については、たしか回復期リハの専従のドクターがいらっしゃらないといけなかったか何かの要件がありまして、現在向かっていない。それから小さな病棟をたくさんするのも経営上不経済になりますので、今、日南病院においては2本立てで向かっておるといのが実態でございます。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）今現在ですけれども、百歳体操とか各地域でやって、とてもよいことだなと思っております。この百歳体操も一つの地域でのリハビリになると思うんですけれども、できれば、今おられるといいますか、理学療法士さんの方に体の要所要所の例えば痛みを改善する体操とかちょっとしたリハビリをDVDか何か撮って、今の百歳体操みたいな感じなんですけれども、それを見て家でしたり、各地域の部落の皆さんとか自治会単位でやられとると思うんですけれども、そういったところで、また第二の体操みたいなもの、体操といいますか、リハビリですね、そういったものはできないものでしょうか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）一般論としまして、そのリハビリの専門性を地域の中で発揮させていただいてお役に立ちたいというのは誰も思っておりますし、病院のリハビリスタッフも十分思っております。いいお話をいただきましたので、いろんな多面的な検討はしていきたいなというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）ちょっと整形外科の関係なんですけれども、日南病院の全体的に外来者数というのが近年といいますか、減少傾向にあるわけなんですけれども、整形外科の患者数も同じように減少していったらいいのでしょうか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）ちょっとデータも持っておりますが、年によって増減があって、比較的診療科としては安定してるほうかなという印象を持っています。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）この整形外科の診療が週1日の水曜日のみということでありまして、そういった影響もあって他の病院のほうに患者さんが流れてるという可能性も十分考えられるんじゃないかなと思うわけなんですけれども、以前アンケート調査があったわけなんですけれども、その中で、日南町から例えば日野病院のほうに行っている方が結構数字では多かったです。やっぱりその辺も受診日の回数が少ないというような影響が考えられると思うんですけれども、どう思われますか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）それぞれの近隣の病院がそれぞれの機能を持っておりますので、強み弱み、あるいはある意味では連携ということをやっておるところでございます。

ます。

日野病院のお話が出ましたので、参考までに、日野病院の受診者のうちの日南町民の割合についてちょっと報告させていただきます。

28年度の状況ですが、外来のほうでは日野病院の受診者のうちの日南町民が17.9%、それから入院のほうですが、日南町民の割合は12.6%で、過去3年ぐらいデータを持っていますけども、大体過去3年ぐらいは落ちついておるといような状況でございます。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）それと、町内の方が、例えば米子とか病院に行かれて、ある程度したら、入院されとって今度日南病院でリハビリを受けたいという方も多分おられると思うんですけども、そういう方はどうでしょうか、多いですか、少数ですか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）基本的に日南病院から米子のほうの大病院を紹介した場合には、急性期から慢性期に移った場合には日南病院に帰っていただくというのが通常の例ですけども、近年では、子供さんが米子周辺におられて、その方の生活支援のために米子周辺のサ高住等々に入所されるとか、基本的には入所者さん、御家族の希望が最優先でございますので、そういうケースもぼつぼつ見られるところでございます。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）例えば米子のほうで手術をされて、こちらのほうで、日南病院のほうでリハビリを受けるとか、そういったことができれば帰られた方も非常に近くて便利がいいんじゃないかなと思うんですけども、そういったことがどんどんできればいいかなと思うんですが、やっぱりそういったことをするのはやっぱり難しいものではないか。やっぱり本人とか家族の意思ということだろうとは思いますが。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）大体は、病院のほうで基本はそういうことで従来から言っております。日南病院から大学に紹介した場合には、大学から日南病院に帰っていただくというのが通例で、従来から基本はそういう形で来とったと思うんですが、そうではないケースも高齢化の中でふえているのかなという印象は持っておるところでございます。よろしいでしょうか。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）それと、外科が月曜から金曜まで受診があるわけですけども、簡単といいますか、腰が痛いとか膝が痛いとか、そういったことでも外科のほうで受診をしてリハビリを受けたり、そういったことは当たり前で可能なんではないか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）外科は平岡院長先生がございまして、実際に整形外科的な診療にもたくさん当たっていただいているのが実態です。その辺は、先生と整形外科の先生との役割分担とか詳細な協議の中身はわかりませんが、疾病状況に支障がないように分担しながら進めていってほしいということだというふうに理解しております。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）普通の方は整形外科のところに足が痛いとかあれば行くわけですけども、なかなか、手術をするような場合であれば外科にかかったりすると思うんですけども、その辺の意識というのが余りないような気がするんですけども、専門のところに行ったことにこしたことはないと思うんですが、外科でもどんどん診てもらえるというのであれば、その辺も何とか、何かPRするというのも難しいのかもわからないんですけど、意識改革といいますか、していけたらいいなと思います。

続きまして、医師の確保ができない、できていないというわけでありまして、看護師のほうも採用が30年度はなかったということでありまして、日南病院のホームページを見たら、内科、小児科、外科各1名、看護師5名を募集されておりました。その医師の確保が難しいという一番の何か要因とかあるものなのではないでしょうか。

○議長（村上 正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽 森政君）議会では余り説明したことがないんですが、もう10年ぐらいたつんでしょうか、医療法の改正によりまして初期医師臨床研修制度というのが始まりました。従来、地方の大学の医学部を卒業しますと、卒業後は医局に残って働きながらトレーニングして一人前のお医者さんになるというのが通例でございましたが、その初期医師臨床研修制度は医師資格を取って2年間必ず必須でトレーニングを受けないといけ

ないという制度です。それが全国どこの医療機関でもいいということになりまして、地方の医学部の卒業生が大挙して都市部の大病院で研修を受けるようになったんです。鳥取大学、島根大学、大変困り出したのが10年近く前でございます。

ことしあたりも、そればかりではないんですが、鳥大の医学部卒業生も相当数が都会に出て、たしか定員40人ぐらい初期医師臨床研修募集だったんですが、10数人だったというふうにお伺いしています。私どもも医師不足で要望はするんですが、大学も厳しいのが現状でございまして、一方的に私たちの要望ばかり伝えておっても大学のほうの機嫌が悪くなるのが関の山というようなケースもございます。情報を密にして連携とりながら、一緒に地域医療であったり、鳥取県西部の医療を確保するために努力していきたいなというふうに思っているところでございます。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）次、看護師のほうなんですけども、平成30年度末ですね、5年先になるわけなんですけども、定年に達する看護職員さんが38名中14名ということで、結構たくさんの方が退職されるわけなんですけども、シミュレーションとして再雇用を65歳までということを考えておられてますが、またその上に70歳までの再任用も何か検討されているんでしょうかね。実際に本当に70まで看護師として働けるものかどうかというのがすごく疑問にあるんですけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）古井病院事務部長。

○病院事務部長（古井 聡君）看護師の再任用でございしますが、今現在60歳が定年退職ということで、60歳以降まだ働けるという意思表示をしていただくと、嘱託職員ということで65まで嘱託職員という身分で採用させていただいてます。それ以降ですけども、今度は臨時職員という身分で働いてもらうことも可能です。現実的に今、ことしの3月末の退職の方は70まで働いていただいております。以上です。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）実際にそういう方がおられるということはすごいことだなと思いますけども、なかなかやっぱり看護師というのは夜勤とかあったりして結構くたびれが来るんじゃないかなと思われそうですけども、あと、看護師職員ですね、新規採用が平成31年から毎年1人を見込む、それとあと、介護職員が新規採用が平成31年から1年置きに1人を見込むとあるんですけども、従来5人とか採用しておられますけども、もう何か半分ちょっと諦めとるような感じのところが見受けられるんですけど、そういうわけでもないんでしょうかね。

○議長（村上 正広君）古井病院事務部長。

○病院事務部長（古井 聡君）決して諦めとるわけではございません。30年度につきましては、非常に頑張っているいろいろガイダンス、それから学校訪問とか行ったわけなんですけども、たまたま今回30年度はなかったというふうに思っただければいいと思います。31年度に向けては、今、若干手応えがあるのがございまして、それで確保はしたいなというふうに思ってますし、新卒ばかりではなく、既卒ですね、ある程度他の病院で修行をしてこられた方とかそういったのも念頭に入れて、ハローワークもですし、それから就職ガイダンスといって、これは新卒ばかりでなく既卒の方も来られることもありますんで、そこら辺のところは顔を出して、確保できるようにその方たちに向けて話ができるようにというふうに努力しているところでございます。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）ぜひとも職員の確保に全力でお願いしたいなと思います。

それと、今回リハビリテーション科の関係とかで、数名の方に日南病院についてちょっと聞いてみました。それで一番多かった意見として、信頼性にちょっと欠けているのではと、そういうような意見が多数ありました。これは大規模な病院と比べると、どうしても医療機器とか専門医師がいなくてとかというので、やっぱりどうしても大きな差は出てくるわけなんですけども、その中で、話の中で1人の方は、体が動けるうちは米子の病院に行きたいと。体がだんだん厳しくなってきたら日南病院にお世話になりたいとか、半分ちょっとわがままかもしれないですけども、そういうような意見がありました。日南病院には町民誰もが世話になるわけでありまして。信頼という町民とのかけ橋をしっかりと築いていただいて、地域に根づいた医療をしっかりとさせていただけたらなと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

続きまして、結婚対策についてですけども、資料で20代、30代、40代の方の人数をいただきましたけども、ちょっと男性のほうで328名で女性が166名となっております。それで、この中には多分学生とかも含まれているんじゃないかなと思いますけど

日南町第2回定例H30年3月13日

も、基本的に20代の方は主体的に結婚されていくんじゃないかなと思います。特に30代、40代を中心とした戦略が必要になってくるんじゃないかなと私は思います。その数字でいきましたら、男女合わせてですが、30代は145名、40代は139名という結果であります。今回されるといのは、全般的に対象でされると思うんですけども、その30代、40代を中心とした考え方というのはどう思われますでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）先ほど私が申し上げた数字は、済みません、独身の数字でしたので、独身者というふうにとっていただけだと思います。

20代の方々はチャンスは確かに多いわけですけど、最終的には20代の方が20年すると40代になるわけですので、やはり結婚というのはそんなにだんだんだんだんということじゃなくて、チャンスがあったらやっぱり1回は結婚してみるというのも一つの手法なのかなと。独身も別に私は悪いとは思ってません、その方の人生です。ただ、もし可能ならば結婚ということも真摯に考えていただければなということでもありますので、やっぱり全般的に呼びかけて、できるだけ早くお子様をつくっていただいたり、家庭生活を営んでいただいたり、日南町での生活を満喫していただければというふうに思っておりますので、30代に限ってとか40代以上に限ってというふうな結婚対策でやりますと、また逆に言いますと参加者が非常に限られてくるというふうに思っておりますので、できるだけ広く、50代でも私はいいと思ってますし、60代の方であってもいいと思っております。最終的には介護であるとかいろんな部分でもやっぱりいいと思っておりますので、独身の方であれば、既婚者はいけませんが、独身の方にはぜひとも参加していただきたいと思っております。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）次、平成28年度の鳥取県の婚姻件数が全国で最下位でありましたが、日南町では近年の婚姻件数というのはどういうぐあいになっておるかわかりますでしょうか。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）正確な数字ではないですが、最近では年間三、四件というふうに思ってますし、ちょっと5年前とかでいくと七、八組とかということは覚えておりますので。ただ、その数字は正式に届けをしていただいた数というふうに思っておりますけれども、年間ですので、そういうイメージでは今、個人的には思っております。ですから年によってかなり少ないというふうに思っております。（「三、四件じゃないよ、もっと多いよ」と呼ぶ者あり）

○議長（村上 正広君）浅田住民課長。

○住民課長（浅田 雅史君）町報の一番後ろのページのほうに、掲載してもいい方の、許可していただいた方だけですけども、その方のものは足し上げることができると思いますので、その数字をまた御提示したいと思えます。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）ちょっと自分も関心があるんで、鳥取県のホームページのほうに記載がしてあったんですけども、本当に数字が正しいかわかりませんが、平成26年は4組で、平成27年が12組で平成28年も12組と思ったよりも多いなと思って見たんですけども、先ほどの副町長との大分人数の差があるような感じはするんですけども。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）ちょっと私、少なかったかもしれませんが、町報に載っとる分を年間で累計したもののイメージで先ほどは申し上げましたので、実際には10何件あったのかもしれませんが、いずれにしても正しい数字を把握しておきたいというふうに思います。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）次に、参加者なんですけども、結構集団で婚活イベントをしたりする方がやっぱり苦手な方がたくさんおられると思うんです。今回セミナーの実施ということで、親子向け、独身者向け、自己啓発、2番目に婚活イベント、3番目に登録相談所の実施、相談所登録助成などを予定されておりますけども、一般業者のほうに委託も多分されると思うんですけども、特に教育委員会と一般業者との役割ですね、この辺をちょっと教えていただきたいと思えます。

○議長（村上 正広君）丸山教育長。

○教育長（丸山 悟君）教育委員会が担うところ、これまでもいろいろところで申し上

げましたけども、先ほどおっしゃったように、これまでのいろんな事業においてなかなか参加者も少ないというところもあったと思います。そういう意味で、なぜ教育委員会かということとは、やっぱり考え方が昔とは若干違っておるんじゃないかなというふうに思います。私たちが育ったところよりも変わってる。その変わったところをやっぱり学習して、現在の結婚対策等々の考え方をまずは学習してみようということで教育委員会が担ったところがあります。

したがって、該当者あるいは親世代、その上には昔は仲人さんという方もいらっしやいました。それが昔はうまく地域のつながりとかということで、先ほど議員もおっしゃったように青年団やいろんな団体があつてそういう場もあったと思いますけども、今はほとんど機能してないというところがあります。そういう場において、やっぱりその部分については行政というか、学習の中に社会教育や生涯学習の中で、もう一回、今の状況はどうだという、私の年代も含めて状況を学習してみようというところで現在計画を立てておるところであります。十分に計画を立てておるところではありませんけども、基本的にはセミナーというところで1年間の流れをつくって行って、最終的には、その考え方等々の現在の状況等について考え方をまとめていきたいと思っております。

その中で1年間やっていくわけでありまして、その中で、私は早く結婚をしてみた、いろいろ聞いてみたいというようなところも発生してくると思いますので、その部分については専門的な機関である相談所等々と連携を保ちながら、そちらのほうで専門的に進めていただくというところがあります。したがって、いろんな場で連携を保っていききたいと思っておりますけども、基本的な教育委員会の考え方は、1年間のセミナーを通して現在の状況等を把握して、そういう気持ちになったり、そういう状況になったときには早目の企業等に託したいというところの考え方で進めていきたいと思っております。

なお、教育委員会でいろいろな学習会をしておりますけども、基本的には専門家をお呼びして講演会を開いておりますので、そこら辺はこれまでの学習会と何ら変わったことではないというふうに理解をしておりますので、議員の皆さん、町民の皆さんもあわせて、やはり現代の結婚の考え方等々について学習をしていきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）後でちょっと自分なりの考えをまた言わせていただきますけども、今回、婚姻の奨励事業の中で、結婚相談所の登録助成が85万出ておりまして、説明の中で大体1人8万5,000の10人分ということでもありますけども、結構高額だと思います。この結婚相談所の登録料ですけども、どこまでといいますか、例えば登録をしてお見合いをするとかイベントをするとか、そういったのもその中に含まれておるかというのを確認したいと思っております。

○議長（村上 正広君）安達教育次長。

○教育次長（安達 才智君）登録の業者についての説明をさせていただきます。

教育委員会のほうで7つの業者、県も含めてです、一般の業者が6社、それから県が行っておりますエントリーというところが1つということで上げております。全国展開をしておりますのが、そのうちの3つ、山陰地方をエリアにしておるのが3つです。業者によって、最初の初期費用が高くて、あと年会費はほとんどないとか、あるいは初期費用は低いんですが、月々の会費が高いとか、あるいはお見合いをするのに勝手に自由にどうぞというところもあれば、お見合いをするのに対してもお金をかける業者もありますし、それから成婚した場合、結婚した場合、その報酬としてもらいますよという業者もあれば、それは全くありませんという業者もあって、一律にこうだからということとはなかなか申し上げることができません。ですが、初期費用ということで、一番高い業者で11万4,480円です。一番低いところだと、鳥取県が運営をしておりますエントリーですが、これが1万円ということになっております。

8万5,000円の根拠になりますが、できれば、全国展開になると、自分のこの人がいいなという方がかなり遠方になって、結局結婚したら遠方に行かれるとかという可能性も高くなってまいりますので、やはり教育委員会としては、せめて山陰エリアということを考えつつ、山陰エリアで一番高い高額なところが8万5,000円ということで、初期経費8万5,000円のところを根拠として考えておるということになります。以上です。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）結婚相談所の登録をして、特に若い方とか女性の方が町外から出ていってしまうという可能性もやっぱり多分にあると思われれます。あと、イベント

業者によっては、サクラといいますか、もうあらかじめ結婚をするせん関係ないような人を入れて、そのイベントを盛り上げるといふようなところもあるというのは聞いたことがあるんですよ。やっぱりちょっとその辺もしっかりと考えてやらないと、余り意味がなないんじゃないかなというふうな気がしておりますが、どうでしょうかね。先ほどもやっぱり危惧されているなというのとはわかりますけども、その辺は何か考えておられますか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）足羽議員のほうも、私と一緒に婚姻対策をやった経験があられますので今のような発言が出ると思うんですけども、私ども、そういうやっぱり危惧をしとります。ただ、先ほど言われた女性の場合で町外に出られるというふうなことで、20代はちょっと別なんですけども、30代、40代の方については、例えばお嬢さんを希望されてるということ、独身であろうというふうに想定をしとりますので、逆に言えば、それも一つの人生かなと思えますし、町外に出られて、また老後帰ってこられるというふうなこともあるというふうに思ってますので、余りそこでいろんな足かせみたいなものをかけると、それでは個人の自由がやっぱり損なわれるんじゃないかなと思ってますので、その辺は余り考えとりません。

逆に、やっぱり言われますように、全国の中でいうと、今そういういわゆるサクラを使ったどっかの人の名前を借りて来ていただいてがありますし、また、婚活事業にしても、いろんな地域を回って、ただで旅行ができてというふうな方も我々がやったときも1人や2人は入ったというふうに思っておりますので、そういう方もおられますので、いろんな例があるというふうに思っております。

ただ、やっぱり県内で、山陰地方である程度実績があるところもありますし、逆に言えば、私は、本当はちょっと教育委員会には1組、結婚が成功したら100万円ぐらいのその業者さんにインセンティブがあってもいいんじゃないかと。それぐらいの気持ちを持っで、日南町の結婚を何とかまとめるんだぐらいの、1組まとめたら100万円別にもらえるんだってというぐらいで、社長から、おまえ頑張れと、必死になって頑張れというぐらいのやっぱり気持ちの事業があってもいいんじゃないかなというふうには思っております。それは半分は冗談でありますけど、でも本当に半分はそれぐらいの気持ちで立ち向かわないと、なかなか結婚というのは難しいというふうに思っておりますので、そういうふうな気持ちを教育委員会も十分持っておりますので、うまくやっていただけるんじゃないかなというふうに思っております。

先ほどあった役割分担ですけども、教育委員会自体は、いわゆる結婚に対する気持ちを当事者の方々、また、周辺の方々も含めて醸成をしていく、そしてそれを業者さんにつなげて、日南町に合ったような方を探していただくなり、いろんなイベントを組んでいただければなというふうに思っております。そういうふうな地元の中でイベントでもあれば、また行政としても協力したいというふうに思っておりますし、場合によっては補正をお願いすることもあるかもしれませんが、そのような気持ちで、ただ単に業者にお任せして、あとおしまいということではなくて、やはりある程度行政も前のめりに攻めていきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）仕事とか家庭の都合で出会いの場が少ない方とか、婚期を逃された方とか交際に一歩踏み出せないような方がおられると思うんですけども、やはりそういうような方を対象に婚姻の奨励事業をしたほうが良いなとは思っております。そのために、まず市町村、日南町が主体となって一つの結婚相談窓口を開設してはどうかなと思っております。今、現状、空き家バンク等で活躍されておられますけども、移住定住の関係で集落支援員さんが各地域におられると思うんですけども、こんなことを言ったら叱られるかもしれませんが、婚姻奨励事業にも地域のために協力をしていただきたいと思います自分では思っております。

そこで、その集落支援員さんに、結婚相談所に登録をしてもらうように働きかけていただくというふうな仕事をお願いできないかなと。そのためには、その集落支援員さんも、ある程度婚活の知識なんか必要じゃないかなと思って、セミナーとかそういったことにも参加していただいて、その登録者を対象にある程度専門家の方に研修とかセミナーをしていただいて、主体性をといいますか、やっただろうじゃないかというふうなちょっと気持ちになっていただけたらなと思うわけですが、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）大変いい御意見だというふうに思っております。集落支援員さんと相談をして、やるというふうな方がおられたらぜひとも参加していただきたいと思います。

日南町第2回定例H30年3月13日

ますし、余談ではございますけども、集落支援員にも独身の方がおられますので、ぜひともみずから登録していただければいいなというふうなことも考えております。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）あと、集落支援員さんのほかにも、町内にも事業所とか企業があるわけですけども、その中からボランティア等も出ていただいて、ある程度、町内の事業所内の対象になる方のお世話をしていただくというような、そういったこともできれば、会社からちょっと出てくれとか登録してくれというのは割と言いやすいんじゃないかなというふうな気がしますけども、そういうふうな考えを持っておりますが、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）そのためにも今回教育委員会にお願いしたのは、教育委員会の町民大学等に参加された方はおわかりだと思うんです。本当に毎回30名から60名ぐらいの方がずっと集まっていたいております。それは、いろんな企業の方も当然おられますし、先ほど言われる地域のリーダーの方もおられますので、やはりそういう方々がそういうことを知っていただいて、自分の身近な方に、こういうことがあるからおまへ行ったらどうか登録したらどうかというふうなことがやっぱり一番伝わりやすいというふうに思っております。自治会長会議等でお話をしても、事業の制度自体はお話しできても、なかなか具体的なところまで時間の制約がある中で伝えることはできませんので、ぜひとも、教育委員会で今計画されとります年間を通じた親御さん向けのセミナーとか、それから本人さんへのセミナーとか、そういうふうないろんなケースを通じてPRができていけばいいなというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）9番、足羽覚議員。

○議員（9番 足羽 覚君）あと、最後になりますけども、結婚することが決して幸せになるとは限りませんが、町内の皆さんが婚活を温かく見守って応援していくことが晩婚とか未婚化への対応につながっていくと思います。並びに人口減少を緩やかにしていく方法の一つだと思っておりますので、本腰を上げて婚姻の奨励事業に取り組んでいただくようお願いいたします。以上で終わります。

○議長（村上 正広君）答弁はよろしいですか。

○議員（9番 足羽 覚君）じゃあ、最後もしあれだったら。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）今、足羽議員が言われましたように、結婚が全てではないというふうに思っておりますし、いろいろなケースがあるというふうに思っております。ただ、やはり私は、今、日南町が直面している人口減の中の一つの方法として、IUターンだけではできない、日南町におられる多くの方々の中で、もし結婚ということを真摯に考えていただける方がおられれば、ぜひともそれを考えていただいて、それから今、独身の方もお父さん、お母さんがおられたりして割と居心地がいいのかもしれないかもしれませんが、誰もが一年一年、年をとっていくというのは間違いない現実であります。そうしたときに、高齢になってひとり暮らしというのなかなか男性であろうと女性であろうといろいろな不便もあるというふうに思っておりますので、やっぱりこの機会を通じて一度、町内の独身の方々、また、独身の方々と一緒におられる家族の方々も結婚なり自分たちの将来ということについて真摯に考えていただける機会になればいいなというふうに思っておりますので、ぜひともそういうふうな機会をつくれるよう、町としても教育委員会と一緒に頑張って努力をしてまいりたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）関連質問がありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（村上 正広君）以上で足羽覚議員の一般質問を終わります。

○議長（村上 正広君）ここで暫時休憩をいたしたいと思っております。再開は2時30分いたします。

午後2時13分休憩

午後2時29分再開

○議長（村上 正広君）休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

その前段で、先ほど足羽議員の婚姻数の数についての御質問がありました。住民課長から説明を求めます。

浅田住民課長。

○住民課長（浅田 雅史君）総合戦略でKPIとして指標としてありまして、毎年、担当課のほうに報告しとる数字がありましたので、その数字を報告させていただきます。

ただし、この数字は、お嫁に行った数とかは含めておりません。その婚姻時にお二人が日南町に籍があったといいますか、住民票があったとか、そういった方々のみですけれども、平成27年が12組、それから平成28年が9組という数字が出ております。以上でございます。

○議長（村上 正広君）よろしいですか。

タブレットの4ページをお開きください。

引き続き一般質問。

7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）私は、今期定例会において、日本共産党の議員として、当面する町政の諸課題について質問を行います。

一昨日の3月11日は東日本大震災から7年が経過して、今なお被災地の状況は深刻であります。何といっても福島第一原発の事故で、ふるさとに帰れないで県内外で避難生活を余儀なくされている人は7万人を超えています。今、政府は地方創生を声高に叫んでいますが、福島の原発事故を思うとき、帰れないふるさとって一体何なんだろうという強い怒りを禁じ得ません。言うまでもなく原発は北海道から九州まで全て地方の海岸に立地していますが、事故原因が究明されないまま政府は再稼働を進めています。私は言語道断だと思います。

また、きのうからきょうにかけて、財務省が学校法人森友学園の決裁文書を書きかえた問題では、前代未聞の事件で、文書を捏造してごまかそうという行政府はこれまで聞いたことがありません。安倍政権による国政の私物化であり、安倍内閣は総辞職しないと国民と国会は許さないと私は考えています。

さて、増原町長におかれては、創造的過疎のキャッチフレーズのもと、2040年の人口推計を重点戦略で3,427人を旨とするということを述べておられます。そのような中で、具体的に当面私が思う人材の確保、これについて福祉と林業の分野について質問をいたします。

まず、日南福祉会の人材確保対策です。

介護職員の確保は喫緊の課題であります。新年度から新たに介護職員等の人材確保対策として1人100万円の支度金制度を設けることになっておりますが、確かにこの制度は制度として日南病院でも取り組まれておりますが、問題は、中途退職者を生まないというための処遇改善を同時に図られる必要があると考えています。事業運営は直接的には日南福祉会ですが、私は、町が1,000万円出資している事実上のこの日南福祉会、いわば公設民営の福祉法人であります。そのことから強く町として、この人員確保は喫緊の課題であるというふうに重ねて考えます。これについての答弁を求めます。

そして2番目に、町外から就職される職員に対して、今、パセオ住宅等に入居される人に福祉会からは住宅手当や通勤手当を支給されておりますけれども、私は、後に触れますけれども、日南福祉会の施設の利用率、これの一部を使ってでも町独自で住宅手当を支給すると、そして町外から日南福祉会に勤められる人に本当に働き続けやすい条件をつくってはどうかということを提案したいと思っております。

次に、林業成長産業化地域創生モデル事業についてであります。

いろいろこれには、実質ことし2年目ですけれども、事業がありますけれども、新規林業従事者の雇用拡大をこの全体の計画の中で、成長戦略にもありますけれども、雇用拡大を20人ということで見込んでおられます。いろいろこの事業に参画されるところがありますけれども、本当にこの目標は達成できるのかということの一定の危惧しています。といいますのも、これまで農林業研修生制度を10年間やってこられて、とりわけ林業については非常に募集者も少なかったし、新年度も29年度もそれぞれ1名ずつという状況であります。ですから、林業アカデミーを創設されるということもありますけれども、本当に募集者がしっかり集まって日南町で林業労働者として働かれることがきっちり確保できるのかということ伺います。

2番目には、地域林政アドバイザーを新規雇用することになっておりますけれども、その業務内容を明らかにしていただきたいと思っております。5年間の事業の中で、このアドバイザーをどのように位置づけられるか。この林野庁の事業は5年間ですけれども、アドバイザー、いわゆるこの林業大学校というものはずっと続けていかなければ継続性も担保できないというふうに考えますが、この点も明らかにしていただきたいというふうに思います。

日南町第2回定例H30年3月13日

3番目に、いろいろと成長産業という中で、間伐あるいは主伐、再造林、こういうことで循環型林業ということで町も、あるいは森林組合も県も取り組んでおられますけども、私は、本当に再造林に向かうときに、今の国、県の補助金の制度ではもたないなというふうに感じて、民有林については補助金の単価を県、国も引き上げないと、なかなか再造林には向かわないだろうというふうに思います。実際に町のこの予算も少ないし、このたびの3月議会でも受注数が少なくて減額補正をされた経過もあります。やっぱり抜本的に本当に林業を成長産業としていくためには、やっぱり大径木ばかり残して間伐を続けるのではなくて、本当の意味で、町長が施政方針でおっしゃっていた先代、先々代が植えた木を切って、そして次の世代にその木を残していくということこそが今求められているし、それが日南町の林業分野での生き残る道だというふうにも考えてますので、この点についても答弁を求めたいというふうに思います。

以上で質問を終わります。

○議長（村上 正広君）4番はいいのかな。

○議員（7番 久代 安敏君）ごめんなさい。ちょっとパソコンには打っていたんですけども、4番目は、平成29年の3月に発表された木質バイオマス事業ですね、これはいろんなことを調査されています。約1,450万ぐらいでしたか、補正予算を急遽組まれて業者に委託されて調査が出ました。本当にこの木質バイオマスを生かすための具体的な施策は、今どのようにその成果をもとに進められようとしているのかということをお聞きします。以上です。

○議長（村上 正広君）執行部の答弁を求めます。

増原町長。

○町長（増原 聡君）久代安敏議員の御質問にお答えします。

まず、日南福祉会の介護職員の確保について、中途退職者を生まないための処遇改善ということでございますが、日南福祉会の近年の職員数は、平成27年度末で177人、平成28年度末で169人、平成29年度は161人でスタートし、29年度には中途退職が6人ありましたが、年度途中での採用が7人ありまして、最終的には29年度末では162人というふうになっとります。どちらにしても当初のここ数年、若干年度末では減りつつあるという状況にあります。

日南福祉会では、中途退職者を防ぐため、また、新規就職者を確保するためにさまざまな取り組みをされとります。具体的には、これは普通の業種では当たり前でございますけど、なかなか福祉の分野では困難でありますので、定期昇給の実施、それから賞与の率の維持、それから研修費や資格取得のための経費助成、業務の見直しによる専門的業務への集約化とスポット的な支援者の受け入れ、寝具類のリース化により介護ケアへ集中できるようにする取り組みなどがあります。

求人におきましては、ハローワーク、ふるさと定住機構などの無料の職業紹介機関だけでなく、有料のマイナビと契約して学生に直接情報が届くようにしたり、中小企業団体中央会に加入してインターンシップを受け入れるなど、努力をされとります。中途退職を防止するための取り組みとして、腰痛を予防するためのリフトの導入も進められており、平成30年度の予算要求においても、抱えない介護を推進するため設置型リフトを計上しとります。これにつきましては町費を充当するところであります。腰痛予防の研修会も継続的に実施しとられます。また、人間関係を含めた職場環境の改善のために、ハラスメントの防止研修や職場環境の改善のためのプロジェクトチームの活動等を実施されとります。

町の支援といたしましては、先ほどの腰痛等のリフトの購入等も含めまして介護福祉人材育成奨学金制度を実施しております。平成27年度から6人に貸与しており、3人が既に就職されとります。3人が修学中であります。引き続き高校、養成校を中心として周知、啓発に努めてまいりたいと思っております。

また、本年度、新規事業として予算計上しております介護職員支度金制度は、資格を有する新規採用者、これは介護福祉士、看護師、リハビリテーション職員に支度金として100万円、初任者研修者は50万円を支給し、少なくとも5年間は勤務をしていただく制度で、これが職場選択の際の後押しになることを願っております。これにつきましては、またちょっと今、福祉保健課とも協議をしとりますけども、いわゆる一回日南町で勤めて他の施設で勤めてまた帰ってこられる場合も、この要件に見合えば就職支度金を私は出しでもいいんじゃないかなというふうに思っております。ある意味では、これはもう競争の時代でありますので、よその施設からでもとらないとといいますか、人、人材を確保しないといけない時代に来てるのかなというふうに思っております。

日南町第2回定例H30年3月13日

そして住宅手当や通勤手当を助成する制度を独自に設けてはどうかということでありますが、日南福祉会におかれましては、住宅手当、通勤手当を支給しておられます。住宅手当は、家賃月額1万1,000円を超える額に対して一定割合を支給し、上限は2万円、通勤手当は1キロ当たり400円で、上限、月5万円となつとります。これらの制度については、町の償還金の猶予というふうなものもその財源の一部に当たつとりますので、この上に町で上乗せするということは現在のところ考えておりません。

次に、林業の成長化産業モデル事業についてでありますけれども、まず、新規林業従事者の雇用拡大目標は達成できるかということでありまして、平成28年12月に改定した日南町の総合戦略では、5年間で町全体で70人の雇用を創出しておりまして、その主要戦略が医療福祉従事者の不足と地域資源を活用した農林業就業人口の増加であります。

林業成長産業化モデル事業におきまして、5年間で20人の雇用増をもくろんでいるところであります。その意味でいいますと、この4月、株式会社オロチで2名、森林組合では3名の採用があるというふうに聞いたりします。また、昨年は2名あつとりますので、既に7名の一つの効果があつたというふうに思つとります。モデル事業全てという効果ではないと思いますが、日南町の林業に追い風が吹いてきているというふうなことは感じとります。来年4月には林業アカデミーも開校します。募集人員は10名でありまして、今、いろいろ県との連携もあつたりしておりますけれども、一応町営のアカデミーではありませんが、鳥取県内の林業後継者の育成も目的の一つといたしてきたので、県にもこのアカデミー運営に御協力いただけることとなりました。町内はもちろんのこと、県内外からも生徒を募集し、5年間で20人という雇用を達成したいというふうに思つとります。

また、林政アドバイザーの業務内容でありますけれども、地域林政アドバイザーとは、林野庁が制定する地域林政アドバイザー活用推進要綱に基づき、市町村または法人が地域林政支援活動の充実を図るために配置する職員であります。日南町では、ことしの4月から配置し、ことし1年間は農林課の嘱託職員として林政室での勤務を予定しとります。島根大学の大学院を修了され、現在は広島県内の森林組合にお勤めであります。4月からは林業アカデミーの開校準備を中心に、その他の林政業務についてもアドバイスをいただいたというふうに思つとります。アカデミー開校後につきましては、本務はアカデミーの講師として、あわせて地域林政アドバイザーとしても従事をしていただきたいと思います。この方につきましては、林業につきましても学ばれておられますし、実際森林組合のほうで実務も経験されとります。また、島根県の中山間地域研究センターというところで藤原さん等とも一緒になって調査研究もされとりますので、多方面で活躍していただける人材だというふうに思っております。

ちなみに、林政アドバイザーにつきましては経費の7割が特交措置となりますので、引き続き地域林政アドバイザーとしての肩書を残しながら町の林政にも御支援をいただきたいと思つとります。

また、国、県と連携して再造林の補助金単価を増額することについてでありますけれども、地ごしらえと新植については、現行制度では鳥取県造林事業費補助金と日南町民有林造林新植経費補助金により個人負担はほぼありません。ただ、新植後の下刈りにつきましては、鳥取県森林環境保全整備事業補助金により約7割の助成が行われておりますが、町がかさ上げを行っていませんので、再造林が停滞する一要因となっているというふうに思つとります。今、ちょうどきょうの日経だったと思ったんですけども、杉、ヒノキの丸太の原木代金が上がっている、また、杉、ヒノキの合板の代金が非常に国産材については値上がりしているというふうなことがあつとります。

この木材価格がどのようになるかというふうなことも関連することでありまして、森林所有者の再造林投資意欲を喚起するには、できる限り造林産業のコストを下げることでその恩恵を森林所有者に還元することが必要です。そうした中で、コンテナ苗を活用した一貫作業システムの採用によるトータルコストの削減が提案され、森林組合でも試験的に導入を図っておられます。ただ、皆伐、再造林の停滞の原因は、こうしたコスト的な問題だけではありません。施政方針でも申しましたように、本町の木材生産量は県下の40%を誇ります。これらの木は、2代、3代までの先人が孫、子のために植樹をされたものであります。

ただ、当時と違い、人口の流出により、その孫、子のためという目的が喪失しかけているのが現状であります。このことは、林野の不在村地主問題を含め、木材の安定供給と持続的な森林経営の実現に赤信号をともしものと危惧しております。皆伐、再造林による年齢構成の平準化は継続的な日南町の林業施業につながり、森林にかかわる雇用の安定と雇用機会を創出します。現在、森林組合と鳥取大学に参画していただいております成長産業化

モデル事業の不在村山主の集約化事業では、今後、意欲ある経営体への山林の売買あっせんや信託契約などによる長期的に山林管理を行う仕組みも構築も検討してまいりたいと思っております。

また、本来ですと、私どもは非常に今回の森林環境税について再造林につながるような用途を期待したわけでありまして、残念ながらそういうふうなものには余り使えないような形がなっております。これらについては今後ともいろいろな会を通じて訴えていきまして、ある程度林業関係のものに独自財源として使えるような縛りのない形で本来的には交付をしていただきたいというふうに思うところでございます。

また、アカデミーの期間でありますけれども、当面は5年間程度は考えていきたいというふうに思っております。そのときのやはり林業情勢とか、町の財政状況、そして募集の状況等も含めながらまた見直しも図っていききたいというふうに思っております。

最後に、木質バイオマス資源の持続的活用による再生可能エネルギー導入計画の状況でありますけれども、28年度事業で検討した可能性について調査を委託しましたものでありますけれども、報告書に導入計画案がありましたが、今回の委託事業ではあくまで木質バイオマスエネルギーの利用可能性を模索するための調査でありました。

今後、導入計画を策定する場合は、木質バイオマスエネルギーを活用する施設と低コストで安定供給できる体制づくりをセットで検討した上で次のステップへというふうに考えております。地球温暖化防止対策などの観点からも再生可能エネルギーの一つの選択肢とは考えとります。

ただ、やはり非常にコストもかかるということですから町の場合、今のところはまきストーブなどの家庭レベルでの利活用を推進していく考えであります。

また、原発というふうなものも触れられましたが、やはり日南町は安心・安全なエネルギーでまちづくりをしたいというふうに考えとりますので、新年度につきましては民間の小水力発電というふうなことも、いわゆる余り大規模なものではなくて、例えば50キロワット程度のものを幾つか建てて、それをブリッジして発電をするというふうなことも含めて今、民間の事業者とそういうふうな調査をするところでありますので、また新年度になりましたら小水力公社と協議した上で諮りたいというふうに思っておりますけれども、町民の方々にもそういう適地というのを教えていただければぜひ積極的に再生可能エネルギーの町として日南町を存続させていきたいというふうに考えるところであります。

以上、久代安敏議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（村上 正広君）再質問がありますか。

7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）まず、今の日南福祉会の人材確保の答弁の中で住宅手当が上限2万円となっておりますが、2万1,000円ではないでしょうかという確認と、私も福祉会の職員さんから聞いた金額はそういうことでしたが、それといわゆるパセオ住宅ですよ、ね、利子補給していますけれども、それが家賃が4万200円ということです。約2分の1を住宅手当として福祉会の職員さんには支給されているということですが、ちょっと確認をまずしておきたいと思います。

○議長（村上 正広君）梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）住宅手当につきましては、私のほうで聞き取りをいたしました。月額1万1,000円を超える額に対しての助成で、上限は2万円と確認いたしました。

○議長（村上 正広君）よろしいですか。

7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）それは現場でもう一度確認させてもらえばいいことですが、いずれにしても私は、例えば隣町の日翔会は町有地に要するに福利厚生としての社宅ですよ、ね、要するに職員さんが勤められる、それは事業者が直接建てられるわけけれども、やっぱりそういう社宅は入居費がほとんど実費で済むわけですよ。

いかんせん日南町は、遠くから通われている方があって、住宅にもそういう形で入っておられて、私はぜひ家賃補助を検討してもらいたいということを提案したわけけれども、実際には現在は考えておられないということです。

そこで、これ介護サービスの特別会計でいつも私、言っていることですが、過去2年間繰り延べをして、平成47年と48年に繰り延べで利用料を支払ってもらおうという、福祉会にですね、会計処理を行っておられます。この本会議の予算審査の中でも町長にお聞きしたんですけれども、今年度の2,795万3,885円という利用料、これについても、過去2年もですけれども、もうすぐ年度末になります。やっぱり福祉会の経営もある意

日南町第2回定例H30年3月13日

味の深刻な状況で、介護報酬が削減、引き下げられる中で大変な状況もあることから鑑みて本当に日南福祉会の人材確保、安定的な経営をしてもらうためにも一定の決断をされるべきじゃないかなというふうには私は、減免とか繰り延べとかいろいろありますけども、具体的な本当に日南福祉会は施設の利用料をどれだけ最終的に払ってもらうんだということとを詰めた協議を、今年度中にはするということですけども、これの一部でも使って支援をする方法があるのではないかなというふうに思いますけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）若干誤解があるというふうには思っておりますけども、実際この約2,800万の使用料については、福祉会さんのほうでは既にある程度の充当としての考え方は持っております。例えば定期昇給とか、ボーナスの支給あたりも既に入ってるわけで、ですからもうそれは変な話ですけども、既存の、別枠のものじゃなくて、自分たちの経営の中の一環として入ってるというふうには捉えられてる面が私はあると思ってます。それはちょっと違うんじゃないかと、考え方が。そうではなくて、人材確保であればさっき、今、久代議員がおっしゃったような例えば住居費に充てて補助してあげて人材確保するとか、そういうふうな形でないと本来的には経営としてはおかしくなってくるというふうには思うわけでありまして。ですからそこをちゃんと認識をしていただいて、こっちはちゃんとした経営としてのもの。足らないところは確かにあるかもしれない。それは例えば二千万何百万の伸び縮みの中で充当してもいいわけですし、逆に言うとそこで余ったところについてはそういうふうな事業をして、やはり人材がいつまでも不足してるからどんどんどんどん縮小とすることではなくて、できればもとに戻すとか、復帰していくとか、拡大していくというふうなこともやはり考えていただかないと、日南町の高齢化率というのはいま半分なわけですし、その中がどんどんどんどん毎年毎年人間とすればお年を召していけるわけですので、当然福祉会に対する要望も我々としては非常に期待するところでありまして。ですから私も決して町として上乗せをしないということではなくて、福祉会としてその使用料をそういうふうなものに充てていただいて人材が不足してることを補っていただければそれはもういいですよと私もとしては思ってるつもりです。そういう話は何回かしております。

○議長（村上 正広君）7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）それは指定管理上やっぱきちっとした契約になってんですか。随時相談をするという、話し合いに、協議して決めるという福祉会と町との契約もかつて見たことがありますけども、やっぱ町としてきっちり諸収入として予算を計上されていて、じゃあ、今の通勤手当とか住宅手当について金額でこれだけは使ってくださいというふうなことをきちっと詰めた議論をされないで、むしろ町のほうが井的な計算ではないかというふうには私は思いますけれども、詰めた話がきっちりできてるんですか、過去2年間とことと。あくまでも過去2年間は繰り延べですよと、2年延長して収入として受けますよと。ただし、今年度は人員確保のために、じゃ、一定程度使ってくださいという具体的な金額の話ができてるんですか。それをお聞きします。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）今年度の場合は、基本的に先ほど町長が申し上げましたように人材確保に充てる内容で使っていただきたいという話を当初からやっております。基本的には何に使えば、充当すればいいのかというところは行政側ではなかなかわかりにくい部分があるので、福祉会の中でその辺は内容は整理してくださいよというお願いをした形で今現在進んでるところであります。その中で今までの役員さんのお話では、町長が言いましたような形の内容、例えば賞与の一部に充当するとか、そういう形での整理の仕方はされておられますけれども、先ほど議員がおっしゃられるような例えば住宅手当の上増しというのか、見直しというところは現在の段階では出てきてないというところがありますので、いずれにしてもやはり効果的な人材確保対策というところは現場の声を重視した形で進めていきたいというふうに思っておりますので、それとは別に奨学金の関係だとか、今回新しく支度金については、それは当然町としても全体的な意味の中で人材確保が必要でありますので、その部分については町のほうでまた起案した形で提案をさせてもらって、効果的なものが生まれればいいというふうに思っておりますので、ですからおっしゃられるように現在の働いておられる職員の皆さんについては、そういった形の中で内容を整理していきたいというふうに思っておりますし、これからもうさらにもいいものがあるようでしたら内容は組みかえていけばいいんじゃないかなというふうには思っております。

○議長（村上 正広君）7番、久代安敏議員。

日南町第2回定例H30年3月13日

○議員（7番 久代 安敏君）私が具体的に住宅、家賃補助ということを提案したのは、支度金というのは1回限りですよ。例えば100万とか50万とか。日南病院もやられてるけど、新規採用もないという状況の中で、やっぱり住宅ってもう毎月家賃は当然発生するわけだから、むしろ本当に働き続けられる環境をつくっていくためには、そういう仕方のほうが私は効果的ではないかなと。家賃補助は全額しますよと。だから日南福祉会に勤めてくださいと。ただし、アパート代は、4万200円ですかね、要りますよということでの人材確保策もあるじゃないかなというふうに私は町外から勤めておられる皆さんの声を聞く中で感じましたが、再度そういう提案についてお答えいただきたいと思いま

す。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）先ほどの中途退職も含めて一つの選択肢だと思いますので、今度福祉会のほうにそういうふうなことも発言があったということで検討されないかという話はしてみたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）それと福祉会所有のグループホーム虹の郷のこととあさひの郷のことです。これは虹の郷の場合は、新たに一步でなくて新しい法人、NPO法人が使用されるということですが、改めてこの指定管理について、やっぱりきちっとあさひの郷については指定管理の決め事をしなくても事業がスタートできるんですかね。そのことをお聞きします。

虹の郷との関係で、虹の郷には296万5,000円、移転経費も含めてNPO法人に出されるということになってますよね、予算上。

あさひの郷については、町の施設で指定管理委託をされるということに変更になると思うんですが、その辺の事務手続上の問題は発生しないんでしょうかということを経務課長か福祉保健課長か、お聞きします。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）虹の郷とあさひの建物の使用貸借の関係ですが、基本的にあさひの郷は御承知のとおり今、指定管理でなして、ちょうど運営上は休止という形ですが、指定管理自体は残っておりますので、あさひの郷ですよ、ついては、ですから継続、それを今度老人用のグループホームとして所期の目的どおりの内容を運営していただきますので、そのままの継続でいいというふうに思っております。

虹の郷につきましては、社会福祉法人の所有物件でありますので、基本的には町と賃貸借の契約という形になろうかなというふうに思っておりますので、それはこれからの具体的な次の新年度以降の中で整理をしていかなければいけないというふうに思っておりますし、法人に対する賃借料的なことも含めて今予算化させていただいてるところであります。ですからそれにつきましてNPOが今度虹の郷を利活用されるという話ですので、その辺はその時点でまた町とNPOの法人との契約が発生するというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）人材確保について、家賃補助のことのほう先にお聞きしたわけですが、中途退職の、一昨年、その前ですね、非常に今、中途退職者が多かった。今現在162人ですかね。かつて一番多かったときには180人以上、184名ぐらいの方がおられたというふうに思いますが、本当に今、中途退職者、どの現場でも介護の職員は不足しているわけですが、一番のこの原因は何であったのかということをやったり、副町長はかつて施設長としてもおられたわけですが、そのあたりあなたがおられたときに比べて今の職員の減少についてどのように見ておられるのか。私は、本当に介護をされている職員の皆さんは、まさにマンパワーで人命にかかわる介護士と同じような仕事をされているわけですが、本当に待遇も含めてどうなのかということをお聞きしたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）最初に、職員の数の件ですが、一番ピークが私の資料では23年度末では206人というふうに思っております。正規だけではなくて、嘱託さんとか、そういう方も含めての数ですが、いわゆるあさひの郷ができて運営開始した年度の後最後ということで、17年ごろは最初は139人で、年度末、1年目の最後はあさひ39人でありまして、その後、御承知のとおり、虹の郷だとか、あるいはあさひの郷もそうですし、それと短期入所のところも拡大をしているということがあって、人もどんどんどんどんふえてきたという経過でありまして、それが17年から運営開始しますとしますので、ことしで12年という経過があります。御承知のとおり、当初はもともとあった、石霞苑とい

う施設があったというふうに思いますが、そこから来ていただいた、あるいは社会福祉協議会の介護部門を担っておられた方、それと新規の募集ということでありまして、基本的には新規が半分、それから既存の人が半分ぐらいというイメージ的な数字ですけども、そういう経過の中でスタートしております、12年経過ということでありまして、現在少なくなっておられる、退職ということがあっておりまして、ですから当初、町内で働いてる皆さん方のやっぱり10年もたつと定年といえますか、60歳というところに到達される方が多くなっているのが現状の一つだろうというふうに思っています。

確かに途中で退職されたり、新規採用してきておりますけれども、退職はやっぱり結婚退職だとかいう形だとか、実家のほうに帰るよというとかの理由が多かったんだろうというふうに思っておりますが、そういう方もおられましたけども、新規の採用がそれ以上にできてたというところがありますので、人数のほうも200人まで到達したんだろうというふうに思っております。ですから現在その辺の新規の採用がなかなか確保が難しいという現状にあるので、一般的な、社会的な背景いうのももちろん大きな要因の一つではないのかなというふうには思っておるところであります。

ただ、御案内のように現在国のほうでは、来年度以降の話になる計画ですけれども、やっぱり介護人材に対する必要性というのを感じとられますので、国のレベルでの給与的なところも含めて新しい見直し、大きな見直しがあるんだろうというふうには聞いておりますので、今後についてはやはり介護分野の産業としての確立といえるでしょうか、介護保険が始まってから、2000年から始まって18年しかたってません。しかなのかわかりませんが、そういったところもありますので、これからやっぱり産業の一つとしてレベルがどんどんどんどん上がってくるというような職業になっていただきたいなというふうな希望も持っておるところでありますので、多少これからそういった職員採用に向かっては少しは明るい希望が生まれてくる可能性はあるんだろうなというふうには個人的には思っております。以上です。

○議長（村上 正広君）7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）引き続きこの日南福祉会の経営については、執行部と理事者と常に連携をして、やっぱり本当に福祉法人が健全な運営ができて、そして若い職員が採用されると、これがやっぱり町の健全な経営だし、今のいろんな定住対策、あるいは婚活などの話もありましたけども、本当にそういう若い職員が安心して勤め続けられるような職場環境をやっぱり町が先頭に立ってつくっていただくように重ねて申し入れておきたいというふうに思います。

次に、林業の成長化地域創造のモデル事業についてであります。まず確認しておきたいことは、この5年間の事業のあくまでも計画です。だと思います。それぞれ国の林野庁の予算の増減はあるとは思いますが、例えば今あった林政のアドバイザーですよね。これはこの事業計画でいうと2年間というふうな事業計画に久城課長、なっておりますが、ずっと5年間、あるいは5年以上、具体的に日南町の林政について非常に優秀な職員の方を採用されるということでしたが、事業計画では予算上は2年間しか上げてないように思いますけども、この辺について継続性について説明してください。

○議長（村上 正広君）久城農林課長。

○農林課長（久城 隆敏君）まず、このモデル事業と地域林政アドバイザーといいますが、これは別の事業になります。いわゆるモデル事業採択になりましたから、この地域林政アドバイザーという形の事業が策定された、要綱ができたというものであります。したがって、町のほうといたしましては、本人がいてくださるということになれば逆にずっといていただければというふうには思っております。町長が答弁いたしましたように、基本的には来年1年間につきましては、いわゆる開校に向けた準備に当たっていただきまして、それから続いて、林政の業務の一部を担当していただく。開校して以降につきましては、本務はいわゆる今のアカデミーの専任講師のような形にして、あわせて所属が市町村であっても法人であっても地域林政アドバイザー、交付税措置になるというふうになっておりますので、あわせて兼務として町の地域林政アドバイザーとしても活躍していただければというふうに思っておるところであります。したがって、期限につきましては思いといたしましては、ずっとおっていただければというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）以前にも質問したことがあって、アドバイザーについては、日南町は特に町有林も膨大な面積があります。このあたりの施業計画も含めて林業経営のあり方等についても、アカデミーに張りつけではもったいないと。やっぱり林業全般にわたっての政策提言、まさにアドバイザーとしての仕事をやってもらうのがいいじゃない

いかなというふうに考えますけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）久城農林課長。

○農林課長（久城 隆敏君）でき得ればそういうふうになれば一番いいと思いますが、ただ、アカデミーでも実は相当こま数をいわゆる講師として受け持っていていただくような状況になっております。現在鳥取大学から3名の先生、それから島根大学から5名の先生にも来ていただくように相談もして内々に了解をいただいとるところでありますけども、あと鳥取森林管理署、あるいは庄原市にあります森林技術支援センター、また鳥取県のほうにもそういったような専門的知識をお持ちの職員の方もおられますので、そういったようなところからの講師派遣もいただきながら、今草案でありますけども、カリキュラムもでき上がったところあります。そこについていわゆるどういったような先生を配置するかによって、そのあたり地域林政アドバイザーのこま数が減っていけば逆に地域林政アドバイザーの仕事がふえて、6割、7割そっちを兼ねてもらおうというようなことができようかというふうに思います。そのあたりにつきましてはもう少し検討させていただければというふうに思います。

○議長（村上 正広君）7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）町長は雇用拡大について林業分野で20人という、それは目標にも明記されているわけですが、例えば林業研修生ですよね、非常にこの間、人数が低迷しているというか、少ないわけだけども、アカデミーを開校して、募集されて、本当に人が県内外から募集して集まるという一定の見込みを持ってもらえるのかどうか、その展望もちょっと示していただきたいなというふうに思いますが、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）なかなか10名というものが確保できるかというのは、ちょっと正直言って自信もないところであります。既に県営でやとられる10幾つのところあたりも最近ではなかなか満員にならない。先般、議会も一緒に視察していただきました京都にしましても最初はたくさんおられたけども、今はやはり一つには景気がよくなった関係もあっていろいろ仕事が選ばれるというふうな時代になってるというふうなことがあって、そういう面も一つあるのかなとは思っております。

ただ、やはり私は、ちゃんとPRしていけばそういう志を持ってる方はおられるというふうに思っておりますので、できる限りPRをしていって話題性を持ちながら日南町でこういうことやるんだということ種をまく人といいますか、そういう人を、林業の種をまく人をぜひとも集めて育てていただければなというふうに思うところであります。

○議長（村上 正広君）7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）先ほど町長の日経新聞で材価がちょっと何か上がってるというふうな話もありましたが、それはこのごろのちょっと相場であって、でも過去30年間で見るとヒノキが23%下がってます。杉が31%下がってます。1立米単価が。やっぱり基本的には今度日豪EPAやTPP11のこともありますけども、やっぱり外材、関税自由化によってもう大きく材価も下がったわけです。

こういう中で本当に成長産業とはいえ、まず働く人が労働時間と給料、所得が安定してないと、やっぱり本当に日南町でアカデミーで講習受けたけども、いざ現場で林業労働者として働こうかという気になれないような実際には木材の価格なんですよね。一つのなりわいとして現在青年の労働者も日南町ふえてきて、かなり皆さん頑張っておられますけども、本当にこの今の木材の単価では展望が見えないというのも一面あると思うんです。そのあたりについて今度森林環境保全税のことも来年、2019年から賦課するような話も、今の国会で成立するようなことも話されていますけども、本当に日南町がこの多くの森林を再生して循環型でやっていくためには、今以上に国の支援がなかったら現実にはやっていけないというふうに思うんです。

この点について、今の県の間伐材の搬出補助金ですよね、これ当初始まったときには4,300円でした、1立米。3月議会で何か県の補助金が少なくなると2,800円だったということで、立米単価が、補正もされましたけれども、例えば県あたりも環境保全税を取っているわけだから、独自に、やっぱり間伐材の搬出補助金を高性能林業機械にシフトするといえども林家にとっては貴重なある意味の価格補償的な制度ですから、県にもわかりやすい、目に見える形での要望としてしっかり要求してほしいというふうに思うんですけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）林業というのは、非常に長期的な産業であります。先ほど言いま

したように、自分のときに植林したもんが自分の代でお金になるということはない。次の世代、次の次の世代ということになると相当長期間の下刈り、中刈りというふうに言うわけですけども、これも相当な長期間かかるというふうなことになるてくると、その経費を単町でというのはなかなか難しい部分があります。面積が日南町の場合、林野面積も9割行くわけでありますので、そういう中でやはり国とか県の支援というのは必要だなというふうに思っております。

先ほどあった間伐の補助金も本当に我々とすれば存続を願っていつも要望するわけですけども、これは全県内の町村会でも要望の中で毎年するわけですけども、財政のほうも県のほうもなかなか大変だということなわけですけども、今度森林環境税についても県にも配分されるわけでありますので、その辺も含めて考えていただくと県のほうが若干そういうふうなところで下支えをしていただけないかというふうなことも一つありますし、やはり国の国策として今回高性能機械でも先般ちょっと話がありましたけれども、瑣末的な話ではなくて、産業として成り立つようなこともしっかり考えていただきたいというふうなことで国のほうにも要望していきたいというふうに思っておりますし、また上京した折には林野庁なりに出向いて、ちょうど今、沖長官で、鳥取県におられた方でありますので、直接お会いしてお話をしてみたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）新規の事業で採択されることは非常に結構なんだけども、やっぱり現場で使い勝手のいいような林野庁の補助金、恐らくキャリアの人、沖長官は来られたかもしれませんが、現場の職員は霞が関でいろいろ計算しとるんですよ。現場に、恐らく日南町の森林に来ておられないじゃないかなというふうにも思います。向こう4年間続く事業で、本当に日南町に合った事業の仕方、その事業を使って林業を興す、作業される人の立場に立った、そういう事業にぜひともしていただきたいなということを要望しておきます。

それと最後に、木質バイオマス資源の持続的活用による再生可能エネルギー導入計画で、株式会社森のエネルギー研究所の調査結果がありますけども、具体的に私は今ちょっと提案したいのが、木質バイオマスを本当にやるならあの木材団地で、あのエリアで再生可能エネルギー、木質バイオマスを展開されたらどうかと。現にオロチもかなりの動力費を使っています。丸和さんも結構電気代を使っておられますし、それから木材市場は金額的には少ないわけだけども、一番電気料を消費するのがオロチです。本当にあそこは木が、バイオマスの原材料が集まる場所ですから、新たに運搬費も要らないし、実質、あのエリアをもし今後、研究されるのならそこも頭に入れて、一番便利のいいところではないかなというふうに思いますので、今ちょっと町長に提案をしたいというふうに思いますが、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）実際もう既に木質バイオマスを使ってオロチのほうでは発電をさしとりますけども、やはり今ちょうど丸和さんのほうも実際チップをつくってられまして、それを境港のほうまで運ばれて再生可能エネルギーにされとるわけでありますので、そういう面で今言われますように、あの地域でやると運搬コストが要らない。それから非常に安価に原材料も入ってくる。また、産業廃棄物のパークといいますか、木の皮ですね、こういうふうなものも場合によっては処理できるというふうに思いますので、ぜひとも熱変換も含めて、例えば今オロチなんかは木材を乾かしたりするわけですけども、そういうふうなことも含めて検討するのは非常に有効かなというふうに思っております。私も当初考えとったのがあそこに高齢者向きの住宅が建ったときに熱のエネルギーをつくって、木質バイオマスを使って例えば電気を発生させて、電気代だけにすれば高齢者の方の入居が安くなるかなというふうなことで考えたわけですけども、なかなか系統連携とかの関係で非常に難しかったわけでありますけども、あそこであれば自主的な施設内の発電で施設内需要というふうなことで一つの絵が描けるというふうに思いますので、今後新しい企業も来るかもしれませんが、そちらのほうとも協議をしながら考えていきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）7番、久代安敏議員。

○議員（7番 久代 安敏君）仮にバイオマス発電を検討される場合は、やっぱり中電がネックになるんですよ。中電は、送電線に余裕がないと。私は実際にはうそをついてると、余裕はあってもないと言っている。自力でできる限りの発電をしたいから、FITに、再生可能エネルギーにのらないふりをしていただけだと思いますが、そういう場合にはやっぱり町独自で本当近くの近隣のところに電気の需要量が多いところには、例えばです

日南町第2回定例H30年3月13日

よ、日南病院までとか、中学校とか、文化センターとか、送電線を、中電は本当に嫌がらせを言うなら自分ら手前でやろうぐらいの気持ちが私は今後必要だというふうに思います。

そういう意味では木材団地が一番いろんな意味で木材の集積場だというふうに思います。んで、かつて丸和さんも検討された経過もあったようですので、ぜひともこういう立派な研究資料をつくられておりますので、さらに研究を深めていただきたいということを申し上げて私の質問を終わりますが、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）非常に有益な御意見だというふうに思いますので、また林業関係の方々にそういうふうなことも伝えて検討していただきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）関連質問がありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（村上 正広君）以上で久代安敏議員の一般質問を終わります。

以上で一般質問を終わります。

○議長（村上 正広君）本日の議事日程は以上をもって終了いたしました。

お諮りいたします。本日はこれをもって会議を閉じ、散会といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（村上 正広君）御異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって会議を閉じ、散会とすることに決定をいたしました。

あす3月14日に予定していました本会議は休会といたします。

なお、3月23日の本会議は、別に通知をいたしませんので、定刻までに御参集いただきますようお願いをいたします。長時間お疲れさまでございました。

午後3時42分散会
